

# F D

2020年度  
北海道医療大学 F D研修報告書  
〈基本編・テーマ編〉

学生を中心とした  
教育をすすめるために

北海道医療大学 全学F D委員会



<テーマ編>

北海道医療大学全学FD研修

学生を中心とした教育をすすめるために

-ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について-

はじめに	59
実施概要（趣旨など）	60
参加者名簿	61
学長講話 「北海道医療大学がめざす学生教育とは」	70
	学長 浅香 正博
感染対策委員会委員長講演 「本学の感染対策～2020年度の新型コロナウイルス感染症に関する対応結果のまとめ～」	74
	講師：感染対策委員会委員長 大村 一将
ワークショップの開催にあたって	80
	副学長 和田 啓爾
テーマとプロダクト作成の説明	82
	FD委員 心理科学部 今井 常晶
ワークショップの進め方とブレイクアウトルームの説明	84
	FD委員 看護福祉学部 山田 律子
ワークショップ（プロダクトと感想）	
1グループ	87
2グループ	89
3グループ	92
4グループ	95

F D 委員感想	.....	97
総合評価	.....	102
アルバム	.....	108

# 全学 FD 研修 [基本編]

「学生を中心とした

教育をすすめるために」

-with コロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティ  
について考える-

期 日：令和 2 年 8 月 6 日（木）

会 場：当別キャンパス [ZOOM 開催]

## 目 次

---

### <基本編>

#### 北海道医療大学全学FD研修

-withコロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える-

はじめに	1
実施概要（趣旨など）	3
参加者名簿	5
学長講話	14
「医療系総合大学教員としての使命と目標 ～新医療人育成の北の拠点を目指して～」 学長 浅香 正博	
レクチャー	24
「シラバス（授業計画）について」 講師：薬学部 泉 剛 教授	
ワークショップ	29
ワークショップグループ名簿	
ワークショップ① 「ワークショップ解説」	
ワークショップ② 「ワークショップのすすめ方」	
ワークショップ③ 「グループ討論 -withコロナ時代のユニバー シティ・アイデンティティについて考える-」	
プロダクト	
Aグループ	30
Bグループ	32
Cグループ	33
Dグループ	35
総合評価	36
FD委員感想	43
アルバム	49

## はじめに

全学FD委員長 荒川 俊哉

8月6日、新しく本学に赴任されました先生方をお迎えして「全学FD研修基本編」が開催されました。本研修会は新任の先生のための研修会で、本来であれば4月に開催されることになっておりましたが、本年2月から猛威を振るい始めた新型コロナウイルスの感染拡大により、4月の開催をやむなく見送っておりました。そのため、新任の先生方にとって、新しい環境でのスタートと共に、コロナによる新しい生活様式、並びに新しい教育様式を構築して行くという、2重の試練に直面することになったわけです。そのような中、全学FD委員会のメンバーの先生方から新任の先生のためのFD研修を中止するのではなく、是非開催しサポートすべきだと言う声を多くいただき、夏の「テーマ編」の開催に換えて、「基本編」を開催する運びとなりました。

全学FD研修会は、学びのための単なる研修会ではないと感じております。FD研修にはもっと重要な役割があるのです。それは他学部の先生と知り合いになり、意見交換をし、様々な意見に触れることが出来る貴重な場であるということです。普段、新任の先生に限らず、我々は他学部の先生との交流を持つことがなかなか出来ません。まして、一つのテーマに関してじっくりと意見交換する場は滅多にありません。全学FD研修会は、その貴重な機会となっております。私は、研修よりも、そのことの方が重要なのではないかといつも感じておりますし、参加した皆様も毎回そのようにおっしゃいます。しかし今回は感染防止で三密を避けるため、対面での熱い議論をすることが出来ません。必然的に、講義同様の対策を取らざるを得ませんでした。FD研修としては初めての試みになりますがZoomでのonline開催となりました。

研修会は午前中に浅香学長先生に、with コロナ時代を踏まえた「医療系総合大学教員としての使命と目標」についてのお話と、薬学部の泉委員に、「シラバスの作成法」に関するレクチャーをしていただきました。午後からは、「With コロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える」をテーマに、ワークショップを行いました。Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用したグループワークになりました。これはFD研修で初めての試みとなり、また私が不慣れなことも有り（私がZoomのホストを担当しました）、グループ分けにトラブルがありましたが、委員の先生方のサポートにより（特に山田先生ありがとう御座いました）、なんとか切り抜けることが出来ました。新任の先生方のフレッシュな感覚をお借りしまして、素晴らしいプロダクトを作り出せたと思います。新任の先生方の熱心な御討議に感謝申し上げますと共に、本学にお越し

いただいたことを心より歓迎申し上げます。そして、今後も本学の教育の発展のためにお力を借りたいと思います。

最後に、本研修会の開催に当たりまして、ご講演いただいた浅香学長先生、開催にご尽力いただきました全学 FD 委員の先生方および事務スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。今後も全学 FD 委員会は、本学の教員の教育力の発展のために FD 研修を通してサポートを続けてまいりたいと思いますのでご協力をお願い申し上げます。

## 令和2年度 全学FD研修〈基本編〉

メインテーマ：「学生を中心とした教育をすすめるために」

\*サブテーマ：with コロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える

主 催：北海道医療大学全学FD委員会

日 時：令和2年8月6日（木） 10：00～15：40（予定）

会 場：Zoom

参加者：2020年度新規採用教員：19名・2019年度 中途採用教員：6名 計 25名 [別紙参照]

FD 委 員 長：歯学部 荒川教授

FD 委 員：薬学部：泉教授、小島教授 歯学部：會田教授 看護福祉学部：山田教授、濱田教授  
心理科学部：百々教授、今井准教授 リハビリテーション科学部：山口教授、西澤教授  
医療技術学部：藏満教授、坊垣教授 全学教育推進センター：佐藤准教授、近藤准教授  
歯科衛生士専門学校：大山専任教員

事 務 担 当：高見学務部長、日下教務企画課長、細川IR課員

講 師：浅香学長

### 【趣旨】

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教職員の自覚を促すとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

### 【目標】

\*一般目標：(General Instructional Objective : GIO)

アドミッション・ポリシーに沿って本学の特長を提示して学生の入学を促すとともに、時代や社会のニーズにあった医療人の育成のための教育手法を構築する。

### 【研修形態】

- 1) 能動的体験型研修とする。
- 2) 肩書なしの対等な意見交換をする。
- 3) 建設的な意見交換から建設的対応策を生み出す。

## ス ケ ジ ュ ー ル 概 要

- |             |   |  |
|-------------|---|--|
| 9:50        | 参加者集合   |  |
| 10:00       | 開会  |  |
| 10:00-10:10 | ≪オリエンテーション≫<br>・研修の意義と進行内容の紹介   | 【進行：佐藤委員】<br>≪荒川委員長≫   |
| 10:10-11:00 | ≪講話≫<br>＊医療系総合大学教員としての使命と目標<br>- 新医療人育成の北の拠点を目指して -   | 【進行：佐藤委員】<br>≪浅香学長≫  |
| 11:05-11:35 | ≪レクチャー≫<br>＊シラバス（授業計画）について  | 【進行：佐藤委員】<br>≪泉委員≫   |
| 11:35-12:50 | 昼食・休憩   |  |
| 12:50-13:05 | ≪ワークショップ≫<br><br>＊ワークショップ解説 ～導入講義と作業課題～   | 【進行：近藤委員】<br><br>【説明：山口委員】   |
| 13:05-13:15 | ＊ワークショップのすすめ方<br>＊ブレイクアウトルームの説明   | 【説明：山田委員】  |
| 13:15-14:40 | ≪ブレイクアウトルーム入室≫<br>＊参加者自己紹介<br>＊役割分担（リーダー・記録・発表）<br>＊グループ名の決定<br>＊グループ討論<br>「with コロナ時代のユニバーシティ・<br>アイデンティティについて考える」 | ≪ファシリテーター≫<br>各グループ2名<br><br>Aグループ：(會田委員, 山田委員)<br>Bグループ：(西澤委員, 泉委員)<br>Cグループ：(山口委員, 百々委員)<br>Dグループ：(大山委員, 小島委員) |
| 14:40-14:50 | 休憩  |  |
| 14:50-15:30 | 発表（発表・質疑応答 10分×4グループ）   | 【進行：近藤委員】  |
| 15:30-15:35 | 総評  | ≪荒川委員長≫  |
| 15:35-15:40 | アンケート記入   |  |
| 15:40       | 閉会  |  |

## 2020年度 全学FD研修&lt;基本編&gt;参加者名簿

2020/8/6

No.	氏名	所属		グループ
1	窪田篤人	薬学部	衛生薬学（環境衛生学）	A
2	小林健一	薬学部	創薬化学（薬化学）	B
3	三浦宏子	歯学部	口腔構造・機能発育学系（保健衛生学）	A
4	岩本理恵	歯学部	生体機能・病態学系（歯科麻酔科学）	B
5	部佳奈子	歯学部	口腔機能修復・再建学系（歯周歯内治療学）	C
6	平木大地	歯学部	生体機能・病態学系（組織再建口腔外科学）	A
7	石川里奈	歯学部	口腔生物学系（生理学）	D
8	松本光生	歯学部	口腔機能修復・再建学系（歯周歯内治療学）	D
9	御厩美登里	看護福祉学部看護学科	地域保健看護学（地域看護学）	A
10	鈴木 和	看護福祉学部臨床福祉学科	精神保健福祉学	B
11	白川そよか	看護福祉学部看護学科	実践基礎看護学	C
12	秋野愛菜	看護福祉学部看護学科	成人看護学	D
13	若濱奈々子	看護福祉学部看護学科	地域保健看護学（老年看護学）	A
14	船橋久美子	看護福祉学部看護学科	地域保健看護学（老年看護学）	B
15	中田雅美	看護福祉学部臨床福祉学科	社会福祉学	C
16	原 理加	認定看護師研修センター	感染管理分野	D
17	福田実奈	心理科学部	臨床心理学科	C
18	熊谷 萌	リハビリテーション科学部	言語聴覚療法学科	B
19	金盛直茂	全学教育推進センター	経済学	D
20	Shaun Hoggard	全学教育推進センター	英語	B
21	福家健宗	全学教育推進センター	体育学	C
22	山田桃子	全学教育推進センター	文学・文章指導	A
23	北川孝雄	先端研究推進センター		C

## 全学FD研修<基本編>ワークグループ

No.	所属	氏名	グループ
1	薬	窪田篤人	A
2	薬	小林健一	B
3	歯	三浦宏子	A
4	歯	岩本理恵	B
5	歯	薮佳奈子	C
6	歯	平木大地	A
7	歯	石川里奈	D
8	歯	松本光生	D
9	看護	御厩美登里	A
10	看護	鈴木 和	B
11	看護	白川そよか	C
12	看護	山田愛菜	D
13	看護	若濱奈々子	A
14	看護	船橋久美子	B
15	看護	中田雅美	C
16	認定	原 理加	D
17	心理	福田実奈	C
18	リハ	熊谷 萌	B
19	全学	金盛直茂	D
20	全学	Shaun Hoggard (シヨン-ン・ホグ-ト)	B
21	全学	福家健宗	C
22	全学	山田桃子	A
23	先端	北川孝雄	C

## 2020年度 全学FD研修 〈基本編〉

### 学生を中心とした教育を 進めるために

Withコロナ時代のユニバーシティ・  
アイデンティティについて考える



主催：全学FD委員会

2020年8月6日（木） Zoom研修会



## 2020年度 全学FD研修 〈基本編〉

### 全学FD委員長あいさつ

全学FD委員会

## 研修会開催の趣旨

### 研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教職員の自覚を促すとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

### 研修のテーマと学習目標

テーマ：Withコロナ時代の  
ユニバーシティ・アイデンティティについて考える

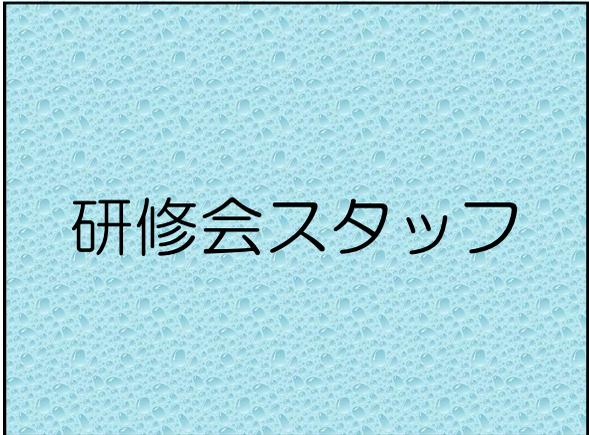
一般目標（General Instructional Objective：GIO）

アドミッション・ポリシーに沿って本学の特長を提示して学生の入学を促すとともに、時代や社会のニーズにあった医療人の育成のための教育手法を構築する

## 研修会スケジュール

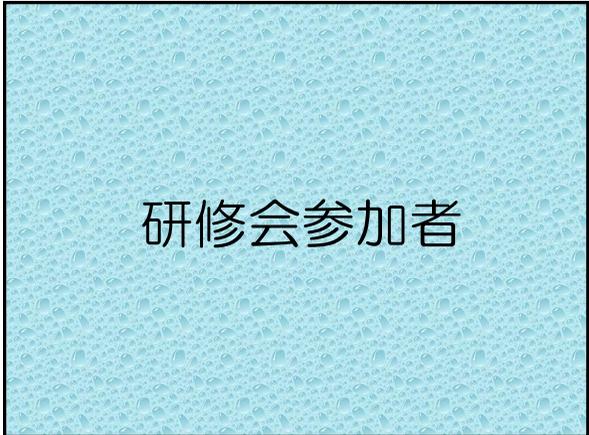
### 研修会スケジュール

9:40	FD委員集合	
9:50	参加者集合	全体進行/近隣委員
10:00	開会、オリエンテーション（研修の趣旨、スケジュール説明、テーマ説明 ほか）	荒川委員長
10:10	講話：「医療系総合大学教員としての使命と目標 -新医療人育成の北の拠点を目指して-」	浅香 正博 学長
11:05	レクチャー：シラバス（授業計画について）	泉委員
11:35	昼 食・休 憩	
12:45	参加者集合	全体進行/佐藤委員
12:50	ワークショップ解説（導入講義と作業課題）	山口委員
13:05	ワークショップの進め方・ブレイクアウトルームについて	山田委員
13:15	ワークショップ 「withコロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える」	
14:40	休 憩	
14:50	発表（1グループ 10分）	
15:30	アンケート提出	
15:40	閉会	



### 研修会スタッフ

学長	浅香 正博
FD委員長	荒川 俊哉 歯学部教授
FD委員	泉 剛 薬学部教授
	小島 弘幸 薬学部教授
	倉田 英紀 歯学部教授
	山田 律子 看護福祉学部教授
	濱田 淳一 看護福祉学部教授
	百々 尚美 心理科学部教授
	今井 常晶 心理科学部准教授
	西澤 典子 リハビリテーション科学部教授
	山口 明彦 リハビリテーション科学部教授
	藏満 保宏 医療技術科学部教授
	坊垣 暁之 医療技術学部教授
	佐藤 圭史 全学教育推進センター准教授
	近藤 朋子 全学教育推進センター准教授
	大山 静江 歯科衛生士専門学校専任教員
事務局	高見 裕勝 学務部長
	日下 稔規 教務企画課長
	細川 洋美 IR課



### 2020年度全学FD研修（基本編） 参加者名簿

薬学部		心理科学部	
助教	窪田篤人 衛生薬学 A	助教	福田実奈 臨床心理学科 C
教授	小林健一 創薬化学 B		
歯学部		リハビリテーション科学部	
		助手	熊谷 萌 言語聴覚療法学科 B
教授	三浦宏子 保健衛生学 A	全学教育推進センター	
助教	岩本理恵 歯科麻酔科学 B	講師	金盛直茂 経済学 D
助教	郡 佳奈子 歯周歯内治療学 C	講師	Shaun Hoggard 英語 B
助教	平木大地 組織再建口腔外科学 A	助教	福家健宗 体育 C
助教	石川里奈 生理学 D	助教	山田桃子 文学/文章指導 A
助教	松本光生 歯周歯内治療学 D	先端研究推進センター	
看護福祉学部		助教	北川孝雄 C
講師	御殿美登里 地域看護学 A	認定看護師研修センター	
助教	鈴木 和 精神保健福祉学 B	専任教員	原 理加 感染管理分野 D
助教	白川そよか 実践基礎看護学 C		
助教	秋野愛菜 成人看護学 D		
助教	若濱奈々子 老年看護学 A		
助教	船橋久美子 老年看護学 B		
講師	中田雅美 社会福祉学 C		

### 参加者のグループ分け

A	B	C	D
窪田篤人	小林健一	郡佳奈子	石川里奈
三浦宏子	岩本理恵	白川そよか	松本光生
平木大地	鈴木 和	中田雅美	秋野愛菜
御殿美登里	船橋久美子	福田実奈	原 理加
若濱奈々子	熊谷 萌	福家健宗	金盛直茂
山田桃子	Shaun Hoggard	北川孝雄	
グループ担当タスクフォース			
倉田委員 山田委員	西澤委員 泉委員	山口委員 百々委員	大山委員 小島委員

## 講話

北海道医療大学 学長

浅香 正博

医療系総合大学教員としての使命と目標  
新医療人育成の北の拠点を目指して

## レクチャー

「シラバス（授業計画）について」

泉 剛  
北海道医療大学 薬学部教授

## 昼食・休憩



ワークショップの開始： **12:50**  
(時間厳守)

**12:45** までに、  
お集まりください。

12:50

## ワークショップ解説

導入講義と作業課題

### ワークショップ:withコロナ時代の ユニバーシティ・アイデンティティについて考える

**作業:** 本学のユニバーシティ・アイデンティティを提示し、  
本学の特長をアピールする方策を考える

- 高校生、あるいは新規入学者に、本学のユニバーシティ・アイデンティティを提示する。
- 本学のアドミッション・ポリシーについてわかりやすく説明する。
- 本学の良さ、特長を戦略的にアピールする。
- 新型コロナウイルス時代において、勝ち組になるための方策を考える。

## 言葉の説明



## アドミッション・ポリシー

### 入学者 受入方針

・アドミッション・ポリシーに盛り込むべきポイント

①各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、大学教育を通してどのような力を発展・向上させるのか。

②入学者に求める能力は何か。

③入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。

(どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど)

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室資料より

## ユニバーシティ・アイデンティティ

「大学がイメージの統一を図り、その組織の存在を人々に印象付けて組織の内外ともに活性化を図るための行為」

ビジュアル・アイデンティティ (VI) : 大学が社会に送り出すあらゆるもの (研究・教育に関する情報と人、サービス、設備、広告、校章に至るまで) をシンボルやデザインによって統一性や計画的な多様性を持たせる

マインド・アイデンティティ (MI) : 新たな教育理念の確認・確立、目標設定、長期的戦略計画の立案、内部資源の再評価・再編成などが行われる

ビヘイビア・アイデンティティ (BI) : 大学の理念、機能、役割を社会に向かって明確に示し、その存在理由を主張し、社会と組織内部の支持と理解を求める

その結果を踏まえた外部への情報発信を中心とするコミュニケーション活動で、実態とイメージの一体化をはかる統合された組織行動

日経広告研究所1994:17-18

## プロダクト作成に際して

### ワークショップ:withコロナ時代の ユニバーシティ・アイデンティティについて考える

プロダクトの作成に際して:

プロダクト発表資料作成は、パワーポイント、ワードなどを問いません。

本学のユニバーシティ・アイデンティティをアピールするために、VI (イメージ、情報)、MI (理念、理想、基盤)、BI (行動計画、実践行動) をどう提示し、展開するか考えてください。

5W1Hを参考にまとめてください。

### 参考資料

本学の基本方針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/basic-policy.html>

教育理念・目的・目標・行動指針※便覧

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/rinen.html>

大学の三方針(ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー)※便覧

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/policy.html>

シラバス(冊子あり/学部別)

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus.html>

学生便覧(冊子あり)

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/index.html>

北海道医療大学学則※便覧

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/gakusoku.html>

学校法人東日本学園 中期計画

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/keikaku.html>

本学の取り組み

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/torikumi.html>

入試情報WEBサイト

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~koho/index.html>

オープンキャンパス

<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~koho/opencampus/index.html>



2020年度 全学FD研修 <基本編>

## ワークショップの進め方 (ブレイクアウトルーム の説明も含む)

2020年8月6日(木) Zoom研修会

主催: 全学FD委員会

担当: 山田律子(看護福祉学部・FD委員)

## ワークショップの流れ

- 12:50 - 13:05 導入講義と作業課題 (山口委員)
- 13:05 - 13:15 ワークショップの進め方 (ブレイクアウトルームの説明も含む) (山田)
- 13:15 - 14:40 ワークショップ (各グループ)
- 14:40 - 14:50 休憩
- 14:50 - 15:30 発表・質疑応答 (各グループ10分)
- 15:30 - 15:35 総評
- 15:40 閉会・アンケート(Google Form)記入

## ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて?

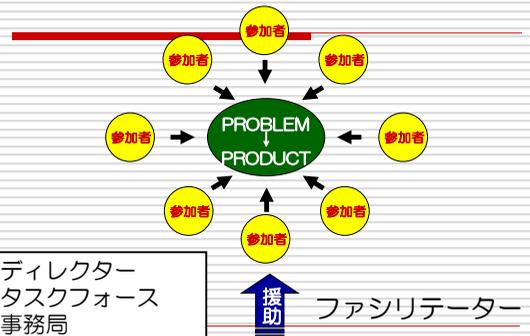


## ワークショップとは?



- ・ 多人数を対象として**参加者1人1人の参画意識を高める**ために、**小グループ**に分かれて**討論と作業**を行い、**結論**を出していく方式をいう。
- ・ **一定の時間内**にある**成果(プロダクト)**を生み出すという手段をとる。

## ワークショップとは?



## ワークショップの流れ

- 1. プレナリーセッション**  
全体 : 導入講義・作業課題
- 2. スモールグループディスカッション (8.5分)**  
グループ別 : 課題について討論・プロダクト作成
- 3. プレゼンテーション (1グループの持ち時間10分)**  
グループ別 : 発表・質疑応答

## ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が Resource Person(主役)
3. 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
4. どんな質問・意見でも無意味ではない  
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど〜」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった正解はない
6. 先生はいない
7. 時間を守る





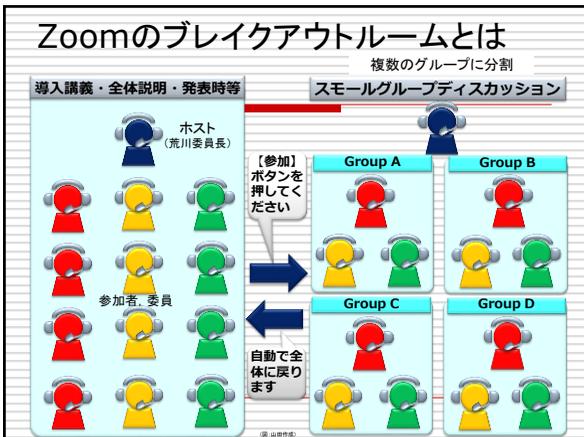
### スモールグループディスカッション

1. 参加者の自己紹介(1分程)  
(アイスブレイク：氏名・所属・私のいち押し、「実は私〇〇です」、Good & New[24時間以内にあった“良かったこと Good”や“新しい発見New”]など)
2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)
3. グループ名の決定
4. グループ討論・発表内容の確認

### 役割



- **司会** . . . . . [ ]
  - グループ討論時の**司会進行**を行う。
- **書記・PC入力** . . . . [ ]
  - グループ討論時、Zoomで画面共有しながら**書記(PC入力)**を行う (プロダクト作成)
  - 作成したプロダクトはU S Bに**保存**する。
- **発表者** . . . . . [ ]
  - 全体発表時に**グループプロダクト**をZoomで**画面共有**して、**発表**を行う。
- **タスクフォース (TF)**
  - グループ討論・作業が効率的に進むように**サポート**する。
  - グループ討論の**タイムキーパー**も行う。



### 休憩



グループ発表の開始： **14:40**

(時間厳守)

**14:38** までにお集まりください。

---

グループ発表

---

---

総 評

(全学FD委員会 委員長)

---

アンケート

---



研修の評価

皆さんの感想をお聞かせください

! アンケートの回答をもって終了です!  
お疲れさまでした

---

学長講話

医療系総合大学教員としての使命と目標  
～新医療人育成の北の拠点を目指して～



## 本学の使命

**建学の理念**  
知育・徳育・体育  
の三位一体による医療人としての全人格の完成  
<1974年創設 大野善七 創代学長>

**行動指針**  
21世紀の新しい健康科学の構築  
社会と共生・協働する自由で開かれた大学を志向  
組織として自律性・透明性を高め、構成員は自主性・創造性を発揮  
学生中心の教育と患者中心の医療

**教育理念**  
生命の尊重と個人の尊厳  
保健・医療・福祉の連携統合  
人間性豊かな専門職業人の養成  
地域・国際社会への貢献

### 本学の沿革

学校法人東日本学園設立(1974)

昨年度から、医療技術学部として臨床検査学科が設置された。  
これにより北海道医療大学は6学部9学科を有する日本でも有数の規模の医療系大学となった。

歯学部附属歯科衛生士専門学校 (1984)  
健康科学研究所 (2002)  
大学教育開発センター (2007)  
リハビリテーション科学部 (2013)

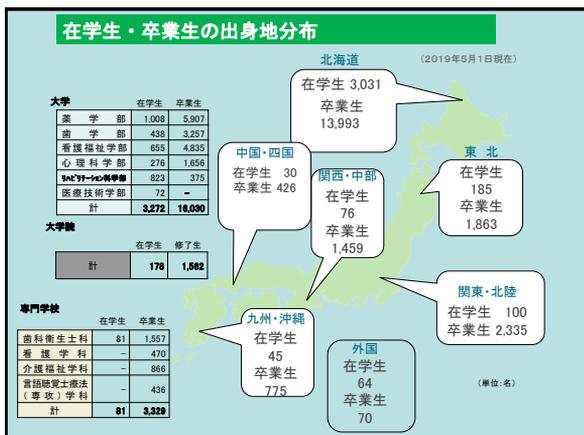
### 学生数・教員数

(2019年5月1日現在)

学部名	学生数	教員数	教員1人あたりの学生数
薬学部	1,008名	70名	14.4名
歯学部	438名	104名	4.2名
看護福祉学部	655名	70名	9.4名
心理科学部	276名	18名	15.3名
リハビリテーション科学部	823名	52名	15.8名
医療技術学部	72名	16名	4.5名
歯学部附属 歯科衛生士専門学校	81名	5名	

●教員1人あたりの学生数 **9.9名**

全国私立大学教員1人あたりの学部学生数 平均19.6名 (2019年度末現在)



- ### 本学における学生教育への対応
- 1 **教育の質の向上と、教育内容・方法の充実**  
●2007年4月 大学教育の総合的検討・立案・実行する「大学教育開発センター」設置
  - 2 **教員の自己評価と学生の評価**  
●教員評価制度(2007年から実施)と評価結果の利用  
●学生による授業アンケート(1993年度から実施)
  - 3 **大学間の協調と連携**
  - 4 **充実した学生生活の確保**  
●Student Campus Presidents (SCP)の導入(2008年度から実施)  
●語学・文化研修(カナダ アルバータ大学)



## 進学目的・入学後の学習意欲

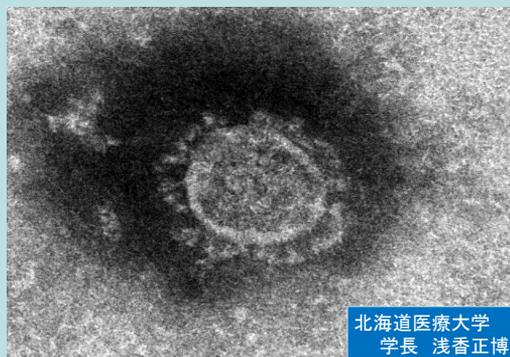
### 進学動機

<b>将来目標型</b>	<b>48%</b>
一般教養を身につけたい	11%
専門知識を学びたい	57%
学問・研究による真理探究	19%
<b>近未来目標型</b>	<b>35%</b>
資格免許取得、就職に有利	51%
学歴	12%
<b>楽しみ・無目的型</b>	<b>18%</b>
とくに目的はない	12%
青春をエンジョイ	12%
スポーツ・文化活動	4%
友人を得る	4%

### 大学に入って学習意欲が高まったか？

高まった	13%
かなり高まった	3%
低くなった	37%
かなり低くなった	21%
わからない	26%

## 新型コロナウイルス感染症2020



北海道医療大学  
学長 浅香正博

## コロナウイルスとは？

- あらゆる動物に感染するコロナウイルス科のウイルス。
- これまで6種類が存在した。今回のコロナウイルスは7種類目の新種である。
- 5番目がSARS，6番目がMERSウイルスである。
- 10-15%の風邪の原因とされている。多くの場合、軽症でおさまる。
- 新型コロナウイルスは新たなタイプのウイルスで感染速度や致死率などがわかっていない。

## 新型コロナウイルスの発生状況

- 2019年12月12日、中国の武漢で最初の感染者が診断された。
- 2020年1月5日、感染者59名うち重症者7名。
- 1月16日、日本で初の感染者。
- 1月20日、習近平国家主席が重要指示。
- 1月23日、武漢を封鎖。571名感染、10名死亡。
- 1月28日、日本政府が感染症法の指定感染症に指定した。

## 新型コロナウイルスの発生状況

- 2020年1月31日、WHOは新型コロナウイルス感染症を“国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態”を宣言。
- 2月日本ではマスクが品切れ状態になった。
- 2月3日クルーズ船ダイヤモンドプリンセスが横浜で712名の感染者、死亡者は10名(死亡率1.4%)。
- 2月11日、WHOがこの疾患をCOVID-19と命名。
- 2月17日、北海道医療大学が学生の海外渡航を自粛通知。
- 2月下旬、韓国、イタリア、イランで感染者急増。

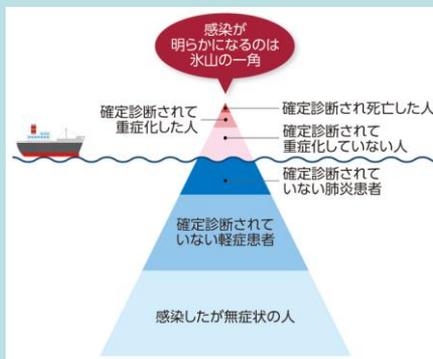
## コロナウイルス感染の経過

- 2月28日、**北海道が緊急事態宣言**。
- 同日、北海道医療大学は3月から全学生の講義を休講、卒業式、入学式の中止を決定。
- 3月4日、日本の感染者が1000人を超えた。
- 3月24日、WHOがCOVID-19を**パンデミック指定**。
- 3月24日、2020年開催予定の東京オリンピックの延期が決定。
- 4月8日、世界で140万人が感染、7.9万人が死亡。日本では、4800人が感染、85人が死亡。
- 欧米各国で非常事態宣言。米国で39万人が感染。
- 4月8日、日本で緊急事態宣言**

## コロナウイルス感染の経過

- 5月25日、日本の緊急事態宣言解除。
- この日、新たな感染者21名のみ。
- 16671名感染し、852名が亡くなった。
- 致死率は5.1%
- 米国: 164万人(10万人死亡) 6.1%
- ブラジル 36万人(2万人死亡) 5.5%
- ロシア 35万人(3633人死亡) 0.1%
- 英国 27万人(4万人死亡) 14.8%
- 中国 8万人(4644人死亡) 5.8%

## コロナウイルス感染症の特徴



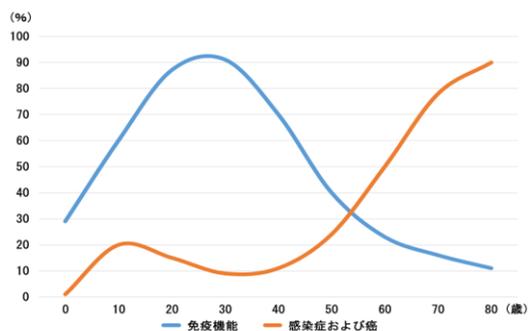
## 新型コロナウイルス感染症の年齢別致死率

中国CDCのデータを改変



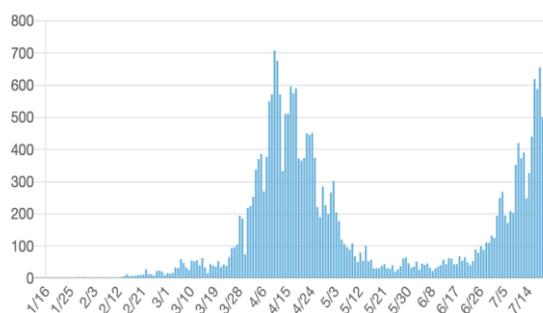
## 免疫力は年々低下し、感染症・がんのリスクは上昇する

身体と免疫の仕組み、日本実業出版



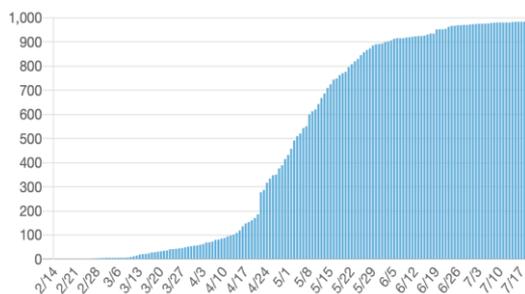
## 陽性者数

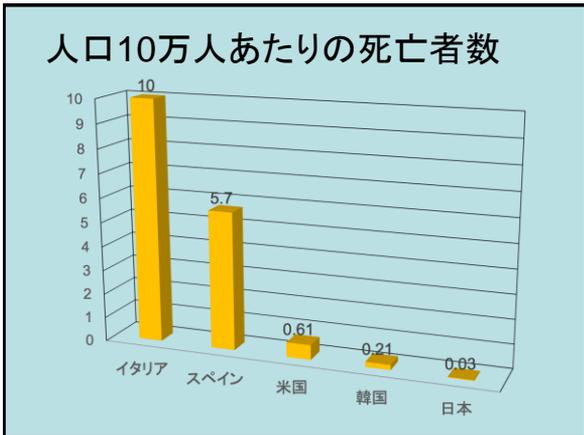
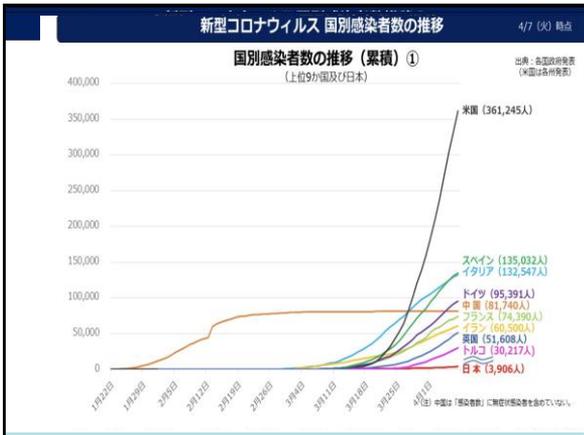
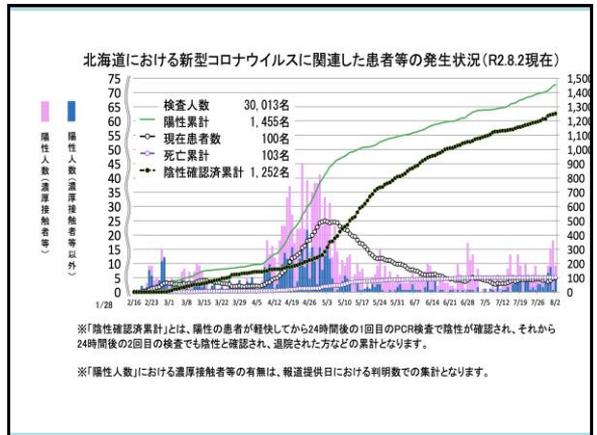
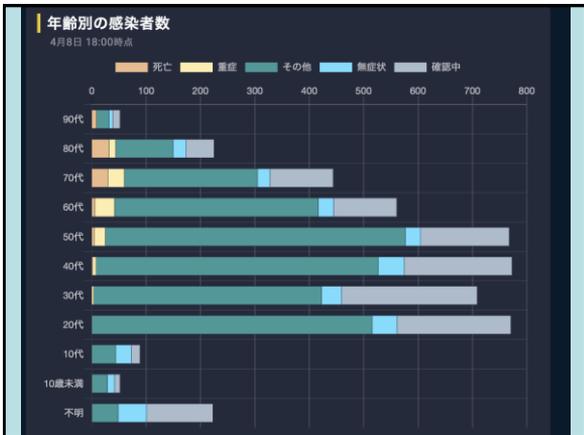
501 人  
(累計 25,249 人)



## 死亡者数 (累計)

984 人  
(前日比 ±0 人)





- ### コロナウイルスの臨床的特徴
- 呼吸器の感染が主体。肺炎を起こしやすい。
  - 飛沫感染、接触感染が大半。
  - 潜伏期は平均約5日、最長14日程度。
  - 遷延する発熱が特徴。咳、筋肉痛、頭痛、味覚、嗅覚障害。
  - 重症例は高齢者に多く見られる。
  - 重症例は高血圧、糖尿病、心疾患、ぜんそく、透析など合併症を有する人に多く見られる。

## コロナウイルス感染症の診断

- 臨床的診断
  - 臨床症状: 発熱、咳、倦怠感; 特異的ではない
  - 胸部写真では診断しにくい。
  - 胸部CTで淡い病変が見られる。
- PCR法
  - 世界的に最も良く行われている。
  - 偽陰性がしばしば見られる。
- 抗体測定法
  - これからのコロナウイルス感染診断の主流になる。
  - IgM抗体が感染性をチェックできる。
  - IgG抗体で既感染をチェックできる。中和抗体。

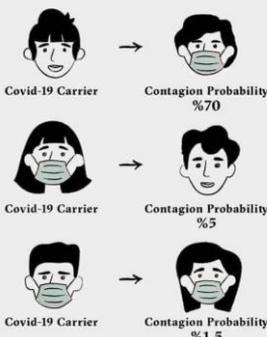


## コロナウイルス感染症の予防

- 飛沫感染と接触感染が主体。
- 3密: 密閉、密集、密接を避ける。カラオケが最悪。
- 飛沫は2m離れると感染しない。
- 部屋の湿度を上げすぎない。
- 体外へ出ると3時間くらいで死滅する。
- プラスチック表面で3日、痰や糞便で5日、尿中では10日も生存する。
- 手指の消毒、流水による手洗いが重要。

## コロナウイルス感染症の予防

- アルコール消毒は有効: エンベロープウイルスのため確実な効果あり。
- マスクは感染防護にあまり有効ではない。
- 空気感染をしないのでN95マスクは不要。
- 感染者が他人に感染させないために有効。
- 咳エチケットを守る。



全員がマスクを着けると感染の確率は2%を切る。

**WEAR IT**

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

3つの「密」を避けましょう!



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。

3つの条件がそろった場所がクラスター(集団)発生のリスクが高い!

※3つの条件のほか、共同で使う物品には消毒などを行ってください。

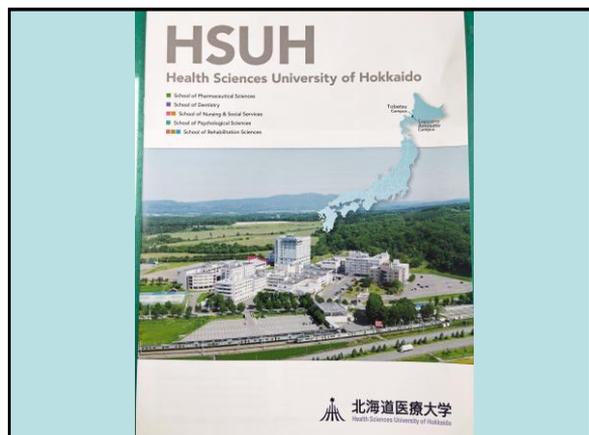
## 北海道医療大学の学生へ

- 通学の際、全員がマスクをしてほしい。
- 感染を起こしやすい場所は、通学電車内、講義室、食堂である。ここで3密を避ける。
- 唾液飛沫が感染源として重要なので、電車内で会話を避ける。大声を出さない。
- 北海道医療大学学生は感染に注意するだけでなく、自分が感染源になる可能性があることを常に自覚し行動してほしい。

## わが国の年間死亡者数 1,370,000人 2019年

380,000人	(がん)
100,000人	(肺炎)
20,000人	(自殺)
3500人	(交通事故)
3000人	(インフルエンザ)
2300人	(結核)
1600人	(熱中症)
978人	(新型コロナウイルス感染症)

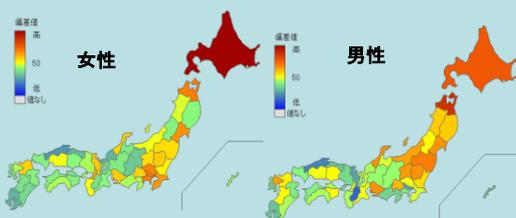
2020年7月7日現在



## 学生に健康を守ることの大切さを教える

- 医療人になるためには健康の重要性をしっかりと認識する必要がある。そうでなければ他人の健康を守ることはできない。
- 学生生活を健康に過ごせるよういくつかのアドバイスが必要。
- バランスの取れた食生活、適度な運動、十分な睡眠が重要。
- 喫煙は絶対に止めよう。

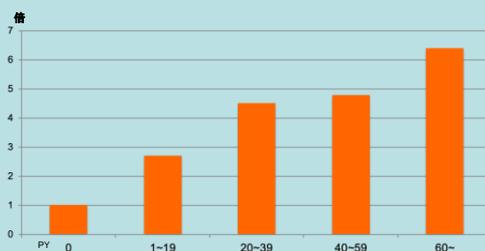
## 各都道府県別喫煙率



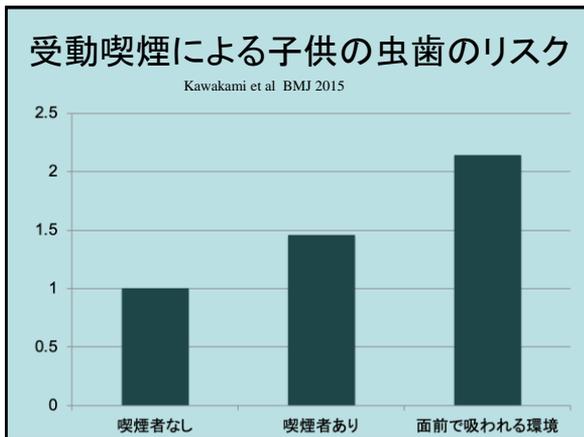
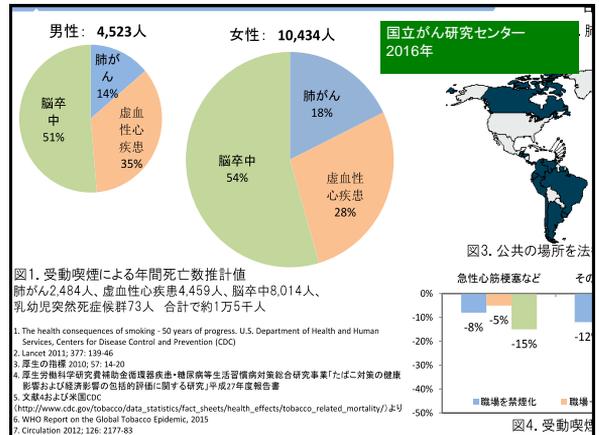
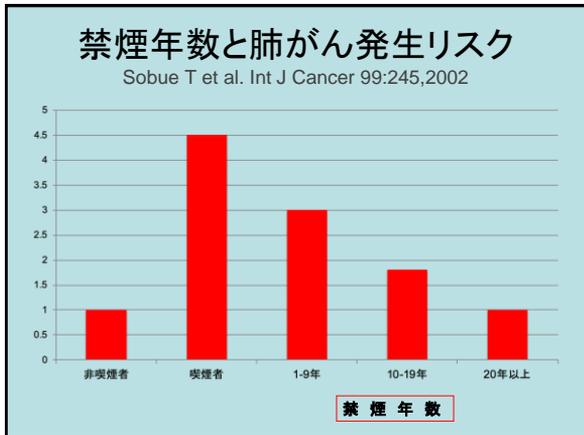
喫煙率に関して北海道が女性で一番、男性で2番(青森が一番)。

## 喫煙指数と肺がん発生率の相対リスク

Sobue T et al. Int J Cancer 99:245,2002



喫煙指数PY=1日の喫煙箱数X喫煙年数:男性



### わが国のタバコ対策の問題点

- タバコの税収入は2兆2703億円(2007年)である。
- タバコ事業を管轄しているのは厚生労働省ではなく、**財務省**である。日本たばこ産業(JT)の筆頭株主である。
- 嗜好品なので規制はゆるくという風潮がある。
- 受動喫煙への対策が遅れている。
- パッケージに書かれている言葉が最も穏やかである。

### 新型コロナウイルス感染症とタバコについて

日本呼吸器学会  
2020年4月20日

1. 喫煙は新型コロナウイルス肺炎重症化の最大のリスクです
2. 三密「密閉」「密集」「密接」の喫煙室は濃厚接触の場です
3. 家においても家族・近隣への受動喫煙を増やさないでください
4. あなた自身と家族、同僚を守るため、この機会に禁煙を!

### 北海道医療大学生における禁煙教育の重要性

- 北海道医療大学の学生には医療人としての自覚を持ってもらい、喫煙を自粛してほしい。
- 禁煙を勧めるだけでなく、受動喫煙の危険性を説明できるだけの知識を持ってほしい。
- 喫煙ほど身体をむしばむものはないことを
- しっかりと認識してほしい。
- **本学の分煙施設は3月末を持って廃止した。**



## 教職員の健康を守るために

- 北海道医療大学の保健センターは教職員の健康を守ります。
- 月曜日から金曜日まで毎日内科の医師が診療しています。
- 水曜日は心の健康についての診療を受けることができます。
- けがや骨折にも対応できます。
- 入院が必要な場合はすぐ対応できます。
- これだけの機能を持った保健センターは北海道医療大学のみです。



レクチャー

シラバス（授業計画）について

レクチャー

---

「シラバス（授業計画）について」

泉 剛  
北海道医療大学 薬学部教授

FD支援サイトのご案内

---

Google 検索 I'm Feeling Lucky

① ページを一番下まで下げる

URL: <http://www.hoku-iryō->

北海道医療大学ホームページ最下部  
学内専用をクリック

ページが切り替わり、  
下記の学内専用ページに移動します。

② ページを中段「教職員向け」まで下げる



## シラバス（授業計画） syllabus

### シラバスとは？

- 授業計画書  
授業という商品の説明をするカタログのようなもの  
何を買うか(受講するか)の選択基準
- 授業の目標、方法と手順、評価の方法を明記
- 学習指針、カリキュラムにおける科目の位置づけ、授業に対する学生と教員のコミュニケーション、教員同士の合意形成などの働き  
⇒全学で統一した記載方法

北海道医療大学FDハンドブック P19

### 教育課程の体系化

大学、学部、学科の教育課程が全体としてどのような能力を育成し、どのような知識、技術、技能を修得させようとしているか、そのために個々の授業科目がどのように連携し関連し合うかが、あらかじめ明示されること。なお、大学として学位授与の方針に対して授業科目が過多であったり、科目の内容が過度に重なっている場合は、精選の上、体系化が行われる必要がある。〔後略〕

文部科学省 中央教育審議会 答申(平成24年8月28日)

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて  
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」〔抜粋〕

### 授業計画(シラバス)の充実

学生に事前に提示する授業計画(シラバス)は、単なる講義概要(コースカタログ)にとどまることなく、学生が授業のため主体的に事前の準備や事後の展開などを行うことを可能にし、他の授業科目との関連性の説明などの記述を含み、授業の工程表として機能するよう作成されること。

文部科学省 中央教育審議会 答申(平成24年8月28日)

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて  
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」〔抜粋〕

#### ディプロマポリシー

各大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

#### カリキュラムポリシー

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針

#### カリキュラム

#### シラバス

ディプロマポリシーを達成するために何を学び、どのような知識、技術を身につける必要があるか

#### アドミッションポリシー

各大学が、当該大学・学部等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果(学力の3要素※)を示すもの。

※(1)知識・技能、(2)思考力・判断力、表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

### ディプロマポリシーとシラバス

- 当該授業科目が、ディプロマポリシーのどの部分を担うものであるのかが明示され、それによって当該授業科目の学習・到達目標が設定される。
- 各授業回における学習内容ならびに学習・到達目標は、当該授業科目の学習・到達目標との関係において設定される。
- 当該授業科目の評価項目は、その到達目標にもとづいて設定され、その評価は到達目標に対する到達度の測定にもとづき行われることを基本とする。

※学部のディプロマポリシーから授業科目の各回の学習目標等は系統立てて繋がっていなければならない

## 留意点

- ① 準備学習(予習・復習等)の具体的内容およびそれに必要な時間
- ② 授業における学修の到達目標および成績評価の方法(出席、態度、試験、レポートなど)
- ③ ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、コアカリキュラムと当該授業科目の関連
- ④ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックを行うこと
- ⑤ 実務経験、実務経験を生かした教育内容

多職種連携	多職種連携																		
<p>【目的】 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</p> <p>【内容】 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</p>	<p>【目的】 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</p> <p>【内容】 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</p>																		
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> <li>2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> <li>3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> <li>4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> </ol>	<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> <li>2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> <li>3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> <li>4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</li> </ol>																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標</th> <th>到達目標</th> <th>到達目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> </tr> <tr> <td>4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>5. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>6. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> </tr> </tbody> </table>	到達目標	到達目標	到達目標	1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	5. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	6. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標</th> <th>到達目標</th> <th>到達目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> </tr> <tr> <td>4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>5. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> <td>6. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。</td> </tr> </tbody> </table>	到達目標	到達目標	到達目標	1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	5. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	6. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。
到達目標	到達目標	到達目標																	
1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。																	
4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	5. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	6. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。																	
到達目標	到達目標	到達目標																	
1. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	2. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	3. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。																	
4. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	5. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。	6. 多職種連携の重要性を認識し、自己の役割を明確にし、チームワークを構築する。																	

## 一般目標

### (General Instruction Objective:GIO)

- 1) 学習者を主語として書く。
- 2) 学習経験の結果、いかなることができるようになるかを表す動詞を含む文章で書く。
- 3) 知識、技能の学習がなぜ重要か＝それらが将来どのように利用されるか、それによって学習者のニーズがどのように満たされるかを明らかにする。(目的をいれる＝……するために)
- 4) 複雑な概念をもつ動詞、総括的な概念をもつ動詞をもちいて表す。  
動詞: 知る 認識する 理解する 感ずる 判断する 価値を認める  
評価する 位置付ける 考察する 使用する 実施する 適用する  
示す 創造する 身につける
- 5) 必要な目標分類(認知・態度・技能)を総括的に含める
- 6) ……のために を前文にまとめてもよい。

## 一般目標で使う動詞

知る 認識する 理解する 感ずる 判断する  
 価値を認める 評価する 位置づける 示す  
 考察する 使用する 実施する 適用する  
 創造する 身につける

## 行動目標

### (Specific Behavioral Objectives: SBO)

学習単位の一般目標を達成するためにどのようなことができるといふかを具体的な言葉で書く。

- 1) 学習者を主語として書く。
- 2) 動詞を含む文章とする。
- 3) 理解する のような概念的言葉でなく、観察可能な行動を具体的に表す。  
試験(成績評価)を想定するといふ。
- 4) 一般目標と関連していること  
ひとつの一般目標に対して、数個から10数個の行動目標が設定される。
- 5) 到達レベルを書く
- 6) 認知、態度、技能をわけて書く。全体がバランスよく含まれるようにする。

## 行動目標で使う動詞

- 認知領域(知識の領域)
 

列記する 列挙する 述べる 具体的に述べる 説明する 分類する 比較する  
 対比する 類別する 関係づける 解釈する 予測する 選択する 同定する  
 弁別する 推論する 予測する 公式化する一般化する 使用する 応用する  
 適用する 演繹する 結論する 批判する 評価する
- 情意領域(態度・習慣の領域)
 

行う 尋ねる 助ける コミュニケートする 寄与する  
 協調する 示す 見せる 表現する 始める 相互に作用する 系統立てる  
 参加する 反応する 応える
- 精神運動領域(技能の領域)
 

感ずる 始める 模倣する 熟練する 工夫する 実施する 行う 創造する 操作する 動かす 手術する 触れる 触診する 調べる 準備する 測定する

# ワークショップ

北海道医療大学のユニバーシティ・アイデンティティについて考える

2020・8・6  
ワークショップ  
Aグループ  
グループ名：コロナの夜明け（仮）

窪田篤人  
三浦宏子  
御厨美登里  
若濱奈々子  
山田桃子  
平木大地

### ビジュアル・アイデンティティ(VI)

- 良い所  
ロゴ
- 改善点  
多職種連携を打ち出していく  
看板が古い、掲示場所  
ロゴの活用（商品化、地元企業とのコラボ等）  
〇〇医療大学との差別化  
パンフレットにチーム医療の特色を出す  
ユニフォームで職種の区別がつきにくい？

Youtube を活用：宣伝、広告  
TVのCM

<ロゴの活用法>  
薬の説明文書の裏に透かしで入れる  
白衣、ポロシャツ等のユニフォームに入れる

### マインド・アイデンティティ(MI)

- 医療大の強み  
コミュニケーション能力が高い（多職種連携できている）  
学生と教員の距離が近い、学生本位
- 医療大の弱み  
学生の能力の差  
コロナ下での学部の連携がとれていない  
教員間の横の繋がりが（学部間での）→FDの活用

部活、学校行事、よさこい等のイベントで横の繋がりが  
できる  
コロナ下での共通のプラットフォームを作る  
仕組み作り

### ビヘイビア・アイデンティティ(BI)

内と外にギャップがある；活動の見える化

地域貢献：withコロナ時代に教員と学生とのコラボで正しい感染予防の普及活動（手の洗い方、うがい薬の使用法、口腔ケア等）

エビデンスのある情報発信；Youtubeの活用（キャッチーなフレーズを入れる、ロゴの活用）  
各学部の持ち味を出す

アドミッションポリシーの説明；1分間でアピール  
本学が目指すベクトルをわかりやすい言葉で共有する

新型コロナウイルス時代において、勝ち組になるための方策を考える

- 遠隔教育の推進

遠隔教育のスキルを活用し続ける

Zoomの活用

対面講義と違い、チャットを通じて意見交換が活発になる

## B グループ グループ名：「りねんってなんでしょか？」

本学のユニバーシティ・アイデンティティをアピールするために、VI, MI, BI をどう提示し、展開するかを考える

### VI (イメージ)

- ・感染対策のプロフェッショナルの職員がいるため、学生としても安全だと思える大学になっている
- ・入学前の意識と比較して入学後の意識が下がっている（学科によっても差があるのか？）  
臨床に触れる機会が多いためアピールポイントになるのではないか
- ・国試対策・試験対策や実習へのきめ細やかな指導体制がある（細かいマニュアルもある）  
生徒の個別性に対応した指導を行っている
- ・国家試験への合格が最終目標。他大学と比較すると教育に対してはとても熱心である。  
それなのに**入学後の学生の意識が下がっている**ことに対しては、教員の熱意が学生に伝わっていないのかもしれない。まだ学生と直接合えていないことも影響しているかもしれない
- ・多職種連携の科目がある。専門性の違いを学生のうちから実感することができる。
- ・キャリアプラン
- ・横幅を広げたキャリアプランを考えていくことができる。福祉を通して今後の自分の生活をイメージすることができる。
- ・大学での学びを臨床で実感できている。そこをどのようにアピールしていくことができるのか。

### MI (理念)

- ・感染対策に関する知識・技術を習得する

### BI (行動)

- ・演習や実習を通して感染対策
- ・

## ～本学をアピールするために～

大学のHPが更新されていないと指摘されることがあるため、HPの更新の頻度を上げることでもう少し大学のことを知ってもらうためのアピールができるのではないか？

★具体的にどのような情報を発信していくことが大学のアピールとなるかを考える★

- ・専門学校は学生がSNSで大学の様子を発信している
- ・学生主体の広報部を作る（実際に入ってみたらこうだったよ、を学生が後輩に発信する）  
\*作られた感になってはいけない  
楽しい部分だけを発信するだけでなく、勉強の大変さなどのリアルな学生生活も伝えていく
- ・学生の学校での自然な生活や勉強の様子を動画でみれるようにする
- ・SNSを活用できたらよい。
- ・感染対策に関するオープンレクチャーな動画（市民講座？）などを発信する
- ・広報と教員・学生が連携をとって大学の情報を発信していく

その他：入学後の学生の意識が下がってしまうことに対する対策

⇒学生同士が話し合うことで思いの共有をして、お互いのモチベーションを高めあえるような場をつくってもよいかも

## withコロナ時代の ユニバーシティ・アイデンティティ について考える

本学のユニバーシティ・アイデンティティを提示し、本学の特長をアピールする方策を考える

当別オンエア（cグループ）

部、白川、中田、福田、福家、北川

## 全体の構成

テーマ：高校生・新規入学者への本学の特長のアピール

- ・アドミッション・ポリシーの概説
  - ・医療大ならではのアドミッション・ポリシーとは
- ・特長のアピール
- ・新型コロナウイルス感染症時代の方策
  - ・遠隔授業推進タスクフォース
  - ・学内でのPCR検査および抗体検査の実施

## 本学のアドミッション・ポリシー

1. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。
2. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。
3. **生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。**
4. **保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。**
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。

## 医療大独自のアドミッション・ポリシー

- ・生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。
- ・保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。

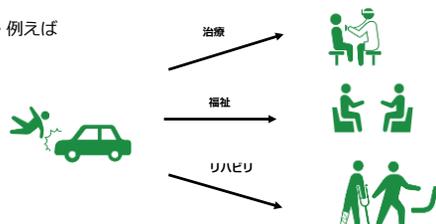
➤**チーム医療**

➤**大学周辺自治体との連携**

→ どうやって伝えていくか？

## どうやって伝えていくか？

・例えば



## 特長のアピール

- ・医療系の総合大学としては有数
  - ・北海道では最も有名な医療大学
  - ・定員一人当たりの学生数も全国平均より少ない、手厚い指導
  - ・複数の学部、学科があることで、医療現場の強み生まれる
- ・➔**多職種連携**
- ・1年生：全学部必修
  - ・2年生以降：学部によって選択等
  - ・4年生以降：全学連携地域包括ケア実践演習

## 特長のアピール

- 国家試験対策
- 全学教育推進センター

### • インターネットの活用！

• SNS

• 出前講義

• 何より、教職員が本学のアピールポイントを理解していることが重要



## 新型コロナウイルス感染症時代の方策

### • 遠隔授業推進タスクフォース

- 同時双方向型授業、オンデマンド型授業、同時双方向とオンデマンドの混合(ハイブリッド)型など、あらゆる形態に対応可能となった

### • 学内でのPCR検査および抗体検査の実施

- 外部実習予定の学生など、必要とされる検査を本学独自で行うことが可能



## ユニバーシティ・アイデンティティ

- ★知育・徳育・体育  
(建学の理念)  
の3位一体による医療人と全人格の形成
- ★北海道の医療を支えている。

たくさんのOB、OGが活躍。

## アドミッションポリシー

自分の専攻分野にとらわれるのではなく  
コミュニケーション能力や協調性  
他分野との連携  
幅広く深い教養と豊かな人間性になる覚悟  
(こんな人求めています)  
患者に寄り添う医療人

## 本学のおすすめポイント

- ・空気がきれい
- ・自然に囲まれている
- ・駅が近い
- ・他学部がある。医療系総合大学。
- ・医療系の学部がたくさんある。
- ・学生がのびのび自由に学習
- ・北海道(自然)、スキー
- ・道外からの学生が多く在学

国家試験合格率  
職業によって異なる?  
高い合格率(徹底指導)  
試験対策  
教員一人当たりの学生9.9名  
全国平均の半分  
多数の医療人を輩出  
半世紀近い歴史がある  
OB、OGが多い  
国際化 留学生の受け入れ

## WITH コロナ

- ★オンラインでコロナに負けない  
対面なら、感染対策をきっちり行いながらの授業。オンラインでできることをやる。  
看護) オンライン実習で代替。動画を使用。  
グループ少人数で学生が主体的に考えながらの授業  
(アクティブラーニング)
- 歯) 病院実習をオンラインで代替  
学生からの評価も高い
- ★コロナに打ち勝つ医療人を育てる

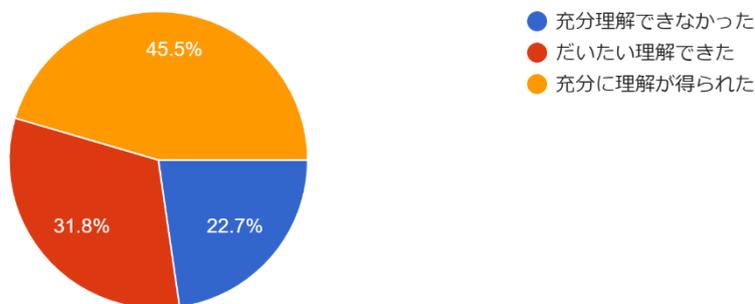
# 総合評価

# 総合評価

\*参加者：23名 ・回答者：22名 ・回収率：95.6% （※1名午後欠席）

1. 今回の新任教員研修における次の各テーマについて、習得度を自己評価してください。

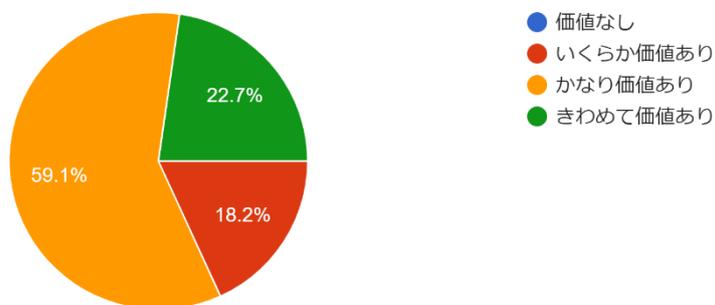
	充分理解できなかった	だいたい理解できた	十分に理解が得られた	無回答
医療系総合大学教員としての使命と目標	5	7	10	0



2. 今回のワークショップについて評価してください。

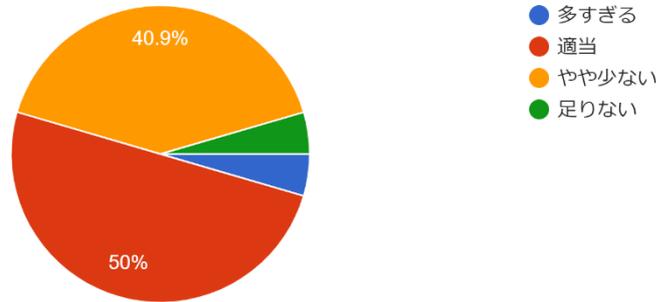
(1) 内容についてどう評価しますか。

価値なし	いくらか価値あり	かなり価値あり	きわめて価値あり	無回答
0	4	13	5	0



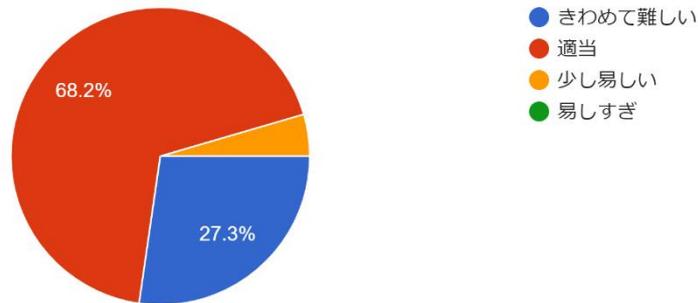
(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。

多すぎる	適当	やや少ない	足りない	無回答
1	11	9	1	0



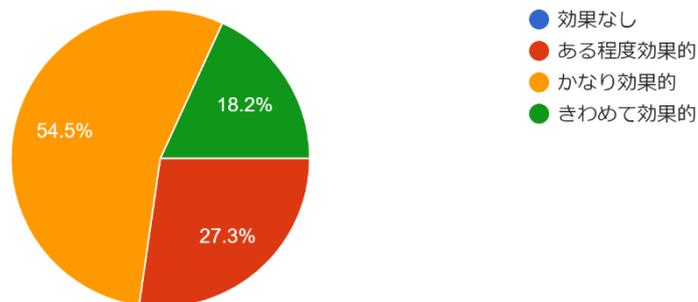
(3) 内容の難易をどう感じましたか。

きわめて難しい	適当	少し易しい	易しすぎ	無回答
6	15	1	0	0



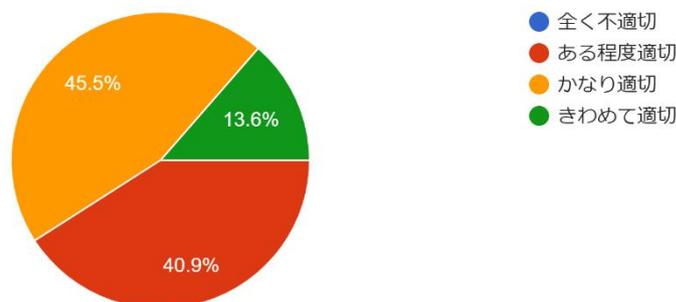
(4) このようなワークショップ形式についてどう思いましたか。

効果なし	ある程度効果的	かなり効果的	きわめて効果的	無回答
0	6	12	4	0



(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

全く不適切	ある程度適切	かなり適切	きわめて適切	無回答
0	9	10	3	0



### 3. 今回のワークショップ全体にわたり、とても良かったと思われる点

- ・北海道医療大学で他大学の先生と話し合う機会がなかったので、よかったです。
- ・他学部の先生方との話し合い。(2件)
- ・学科として学生募集は大きな課題のため。
- ・本学の理念について深く議論できる点。
- ・zoomでもある程度議論ができたこと。
- ・他学部の教員とコミュニケーションがとれたこと。
- ・ワークショップを取り入れていることで、能動的に学ぶことができた点。
- ・他学部の先生方の考えを知ることができた。
- ・他の分野の先生とディスカッションできた点。
- ・他学部の先生方と意見交換ができ、共有項を見いだせたこと。
- ・他学部の教員との貴重な交流、意見交換の機会になりました。(2件)
- ・本大学の1教員として本大学を知る必要があると認識できたこと。ワークショップのルールが提示されていたこと。ファシリテーターの先生がいらっしやったこと。
- ・普段はなかなか聞くことのできない学長のお話などをお聞きすることができ、よい機会となりました。
- ・グループディスカッションで他学部・他学科の先生と一緒できたこと。
- ・他学部の教員との交流。(2件)
- ・他学部の教員との連携。
- ・普段他学部の先生とお話しする機会がほぼないため、ワークショップを通して様々な視点からの意見を聞くことができ良かったです。
- ・他の部署の先生方と大学の現状や今後の在り方に関する意見や考えを共有する時間が持てたのが大変身になりました。
- ・アイスブレイクで緊張がほぐれ、話や意見交換が活発になった点。

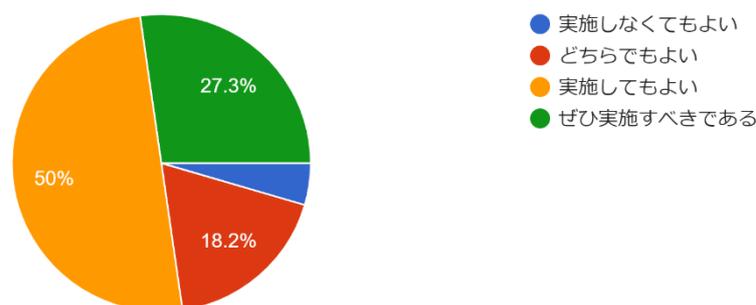
### 4. 今回のワークショップ全体にわたり、良くなかったと思われる点(改善点)

- ・よい授業の方法等を教えていただけるとよかったですかなと思います。
- ・時間が短かった。
- ・発表がもう少し自由度があったほうが話しやすかった。発表のための話し合いになってしまう時間があつた。
- ・内容がやや広範で、曖昧な部分も散見された。より狭い点にフォーカスしても良いかもしれないと感じました。

- ・対面でないと、例えば書いて説明するなどがやりづらい
- ・多人数で Zoom を用いてのディスカッションに慣れていなかったので発言のタイミングが難しかったです。
- ・学期の最後のタイミング。
- ・ディスカッションの時間がやや足りなかった。
- ・機械トラブルや、メンバーが少なかったこともあり、意見を出して集約する時間が足りませんでした。
- ・自身の反省にもなるが、発言しすぎて、話に参加できていないメンバーが出てしまったこと。
- ・話し合うべき論点の不明確さと、目指すべきゴール設定がわかりにくく、ファシリテートの難しさを実感した。
- ・教員経験のない新任の教員や就任後間もない教員に本学の特徴・他大学との違いについて求めるのはやや難しいのではないかと感じた。
- ・就任したばかりでユニバーシティ・アイデンティティについて考えることは、外から来た先生方には難しかったのではないかと考える。新任教員には卒業生も多く、特徴を分かっている人も多くいるかもしれないが学生としての立場と教員としての立場は違うためもう少し本学の特徴を説明してもらえる時間をとってもらいたかった。
- ・時間に対して考える項目が少し多かったかな、と思います。
- ・話し合うべき項目がやや多く、また抽象的だったので（意図的に抽象的なままにされたのだと思うのですが）、もう少し項目が絞られるか、具体化されるか、もしくは時間をもう少しだけいただけると、議論がより深まったかなと感じました。
- ・人数と役職数を同数にした方が良い。
- ・夏季休暇前で忙しい時期なので、開催時期はもう少し考えていただきたいかったです。
- ・進行や展開がややファシリテーターに依存していた点。

##### 5. 今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。

実施しなくてもよい	どちらでもよい	実施してもよい	ぜひ実施すべきである	無回答
1	4	11	6	0



##### 6. このワークショップの成果に関連して、今後1年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにしてください。

- ・授業方法。
- ・実習等力を入れていい学生を輩出したい。
- ・学科教員との共有。
- ・広報担当者との連携。
- ・基礎科目と臨床上の関連点について学生に明確な指導を行う。
- ・大学で出前講義などの対応があるのであればやってもよい。
- ・大学の魅力を社会に発信する教育研究活動について、考え行動していきたいと思います。

- ・ 本学の理念などについて考えること。
- ・ 学生にとって良い学びをするために自分に何が出来るか考える。
- ・ 大学の教育理念についての理解を深める。
- ・ アピールポイントを探すこと。
- ・ 本学をさらにアピールする点で、広報と教員、学生が連携してHPだけでなく、SNS等を活用して発信していきたい。
- ・ 遠隔教育のスキルをどのように高めるか。今回使用したブレイクアウトルームについて、自身の科目でも応用を検討したい。
- ・ 医療大生、教員どちらも経験したからこそわかる医療大のリアルな良さを、オープンキャンパスなどを通じて発信していきたいです。
- ・ 本大学の特色を理解すること。それをアピールするための活動に自身の専門領域を生かして参画すること。
- ・ このご時世で、なかなか学生と関わる機会も減ってしまいましたが、実習などの際は、積極的に教育、交流ができればと思います。
- ・ \*新任教員によるワークショップということであれば、理念や本学の実態を踏まえたものでなく、新人だからこそ出てくる自由な発想（高校生や社会へのアピールポイントとその方法を自由にあげてみよう！等）に絞ってアイデアをどんどん出すような機会にしてはどうか \*同じテーマで入職数年目、10年、15年以上など、並行して同じような内容で実施してはどうか。
- ・ \*大学の特色を表すものを新任教員にプレゼンしてもらい、新任教員にどこかのプロジェクトに所属してもらおう。例）多職種連携、地域連携・地域貢献、卒業生へのアプローチ、高校生等への広報活動など
- ・ 個々の学生の特徴に応じた実習指導やゼミの学生への国試対策のフォローをしっかりと行っていきたい。
- ・ コロナ禍での国家試験合格率の上昇。
- ・ 私自身が本学の特徴や強みをとらえ、それを学生に発信できるように取り組みたいです。また、卒業生として、「こんな先輩になりたい」と思ってもらえるよう、今後も自分自身のキャリアプランを築いていけたらと思います。
- ・ 大学の強み、特性をより理解する / ・ 今日のお話で出た学生間の学力差や入学後の意欲の低下といった点に関して、自分の携わる初年次教育からも出来ることをやっていく。
- ・ インターネットを利用した広報活動。
- ・ 教員側の熱意が伝わる教育・HPの更新。
- ・ 多職種連携、学部間の横の繋がり。

## 7. 全体を通して、今回の新任教員研修に対するご意見を記入してください。

- ・ 本当は対面でおこなえればよかったですが、残念です・・・
- ・ とても有意義でした。
- ・ 勉強になりました。今回の内容が、どのように広報にいかされるのか楽しみです。
- ・ 遠隔で行われる場合、土日開催でも良いかと思われました。
- ・ 今後のオンライン会議の進行の参考になりました。
- ・ 面白かったです。ありがとうございました。
- ・ 本学へ就任したものの、コロナの影響もあり、他の学部の教員や学生との関りがあまり無かったので、今回このような機会を設けて頂いたことで、色々な意見を聞くことが出来て本当に良かったです。
- ・ ご準備いただいた委員の先生方に深謝します。遠隔システムでのディスカッションの仕方等、学びが多かったです。
- ・ コロナ禍において、貴重な機会を設けて頂き、ありがとうございました。（2件）
- ・ 貴重な機会をありがとうございました。コロナ禍で交流がないなか他分野の先生と少しでもお話できたのは良かったです。
- ・ 初めてのFD研修でしたが、様々なお話を聞くことができ、とても良い機会となりました。
- ・ 初めてのオンラインでのワークショップだったのでなかなか発言出来ませんでしたでしたが、次回このような機会がありましたら積極的に発言出来ればと思いました。ありがとうございました。
- ・ 新任教員研修ということで、逆に大学の特徴を知りたいと考えましたし、そのようなことが知れる機会が欲しいと感じます。本学のどこの・誰が・どんな面白いことをしているのか、ま

ずは知りたいです。また、本学での教育の特徴（ルール）や研究環境について（研究費の獲得や使用、サバティカルについて）、組織全体について（事務手続きの窓口や方法）など、実際の業務遂行につながるような実務的な話も伺いたかったです。

- ・他学部の教員と交流を図れたことが良い経験となりました。
- ・他学部の教員との連携をとれたことはよかったと思う。
- ・FD担当の先生方、ご多忙の中ありがとうございました。オンラインでの研修実施となり、普段にも増して運営が大変であったかと思えます。研修に参加させていただき、卒業生として、また教員として北海道医療大学で働けることを改めて誇りに思っています。本日学んだことを活かして今後に活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。
- ・zoomでの研修ということもあり緊張しながら参加しましたが、ワークショップの他のメンバーの先生方やファシリテーターの先生方にも助けられて話し合いに参加でき、また違う視点の様々なご意見を伺えて、大学に対する認識を深められ、大変勉強になりました。
- ・with コロナの大変な状況の中、FD研修をご用意いただきありがとうございました。
- ・今回の研修で他のメンバーと議論した内容について、今後の教育に活かしていきたいと思えます。
- ・ワークショップ自体がどういうものかよく知らなかったなので、その内容や意義を理解することができた。

# F D 委員 感想

薬学部  
教授 泉 剛

今回の初任者FD研修では、「学生を中心とした教育をすすめるために：with コロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える」というテーマでワークショップが行われた。4グループに分かれて熱心な討論と作業が行われた。筆者がファシリテーターとして参加したBグループでは、新入生アンケートの「入学後に学習意欲が低下する学生がいる。」という結果から議論がスタートし、「教官側では意欲的な取組みをしているのに、熱意が学生に十分に伝わっていないのではないか。」という問題提起がなされた。そして、「ホームページやSNSを使用した大学側の発信に改善の余地はないか。」という議論に発展した。さらに、「他学では、学生が大学のHP作成に関与したり、インスタで授業の様子を配信したり、新入生がSNSで出身校の高校生と対話したりと、学生自身が広報を主体的に担っている場合がある。」という体験談が紹介された。そして、現状打破のためには教員だけでなく、SNSを活用した学生の主体的な取組みが有効ではないか、という結論に至った。筆者はこれまで、個人情報保護や著作権の問題を考えるあまり、「いかに学生のSNS発信を規制するか。」という観点からのみ考えていたが、「学生の主体的なSNS発信を大学の広報に活用する。」というまったく逆の発想に驚いた。本日のワークショップの結果が、今後、大学の広報活動に生かされることを期待したい。

薬学部  
教授 小島 弘幸

Zoomを用いたグループ討議は、調整役の先生方のご苦労されたと思うが、遠隔でも参加者が身近に感じられ全く違和感がなかった。Zoomはwithコロナ時代には必須アイテムであることを改めて認識した。さて、Dグループのワークショップでは、参加者が4名という小規模でのグループ討議となったが、終始ほぼ会話は途切れず、和やかな雰囲気で行進した。まずはユニバーシティ・アイデンティティを各人が列挙する作業から開始され、高校生や保護者を意識した「本学のおすすめポイント」が数多く列挙された。また、これらを発展させた形でのアドミッションポリシーを分かりやすく伝えるための工夫がなされた。Withコロナ時代の勝ち組になるためには、しっかりとした遠隔授業やビデオを用いた実習講義の重要性が確認された。ただし、「おすすめポイント」を整理したことは評価できるが、このことをどのように外部に伝えるかという議論まで至らなかったことは、ファシリテーターとして反省するところである。また、他のグループが本学の良い点だけではなく、特に広報に関する多くの改善点を指摘したことは、数ヶ月在職した経験から危機意識を含めて発出されたと考えられる。このような貴重な意見を無駄にせず、FD委員会から広報分野へしっかり伝えることも私学のwithコロナ時代を生き抜く上で必要と感じた。

歯学部  
教授 會田 英紀

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため全学FD研修会（基礎編）の開催が危ぶまれていたが、荒川委員長始めFD委員、学務部の多大なるご尽力によりこの時期に開催できたことがとても意義のあることであると感じた。当初はオンラインの講演のみを企画するという話も出ていたが、情報推進課と看護福祉学部の山田委員のご尽力によりブレイクアウトルームを活用したグループワークをオンラインで実施できたことも今回の大きな収穫であったと考える。対面でのグループワークが最も理想的であることは論をまたないが、今回の実績を元にウィズコロナ時代でもこのようなFD研修会を企画・実施することが可能であることが確認できたことはとても大切なことであると考える。

テーマの「With コロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える」もとてもタイムリーであり、若い教員を中心にITやSNSを活用する柔軟なアイデアが多く発表されていた。また、荒川委員長を中心としたWGの事前準備が素晴らしく、当日の進行もとてもスムーズであった。

看護福祉学部  
教授 山田 律子

はじめてのZoomによる開催でしたが、ワークショップもブレイクアウトセッション機能を使って、建設的なアイデアが活発に出され、すぐに実施できるような内容も多くありました。

FD委員として「ワークショップの進め方」を担当し、簡単にアイスブレイクの大切さを説明しましたが、皆様、上手に取り入れていただき、ユニークなGood&Newもあり、和やかな雰囲気が始まりました。参加したAグループでは、役割も立候補で決まり、司会の先生がとても上手に参加者全員の意見を引き出しながら、限られた時間内で最後の課題まで進めるという見事な運営でした。

ビジュアル・アイデンティティでは、本学のロゴが良いので、「薬の説明書に透かしでロゴを入れる」「白衣やポロシャツ等のユニフォームにロゴを入れ、学生や教員が歩く広告塔になる」「地元企業とのコラボによるロゴを活用した商品」等々のロゴの活用法や、北海道内に医療大学と名がつく大学が増えて間違われたことがあるため、「パンフレットを本学独自のチーム医療をイメージできるように、写真やキャッチフレーズで他大学との差別化をはかる」などの意見、高校生はYouTubeよく見ることから、時流性を踏まえた広報活動などの意見がありました。マインド・アイデンティティでは、本学の強みとして学生たちのコミュニケーション能力の高さや、学生本位の教育で、学生と教員の距離が近いことが挙げられるが、学部間の連携がないことなどの課題も出され、コロナ禍ゆえに共通のプラットフォームといった仕組みづくりの必要性が話し合われました。ビヘイビア・アイデンティティでは、北海道医療大学ゆえに、地域貢献として「withコロナ時代に教員と学生とのコラボで正しい感染予防の普及活動（手指衛生、うがい薬の使用法、口腔ケア等）」を、YouTubeでエビデンスのある情報発信をしてはどうかといった、まさにグループ名「コロナの夜明け」に繋がる、COVID-19時代に勝ち組となるための方策も話し合われ、有意義な時間でした。

ご参加された新任教員の皆様、またご準備・運営に尽力いただきました荒川委員長、日下課長をはじめFD委員の皆様、誠にありがとうございました。

心理科学部  
教授 百々 尚美

FD 研修会〈基本編〉へファシリテーターとして参加させていただきまして、ありがとうございました。

初めての Zoom での開催でしたが、実際に対面で行う FD 研修会〈基本編〉と遜色なく行うことができたのではないかと思います。

学長の講話では貴重な資料をたくさん提示していただきました。今回は Zoom での開催のおかげで、資料の視認性が高く、理解に役立ちました。

ワークショップでは、参加された新任の先生がたは問題なくグループ間の意見交換を活発に行っていたら良かったです。参加された先生方は、PC 操作に長けていらっしやったので、各自の得意な領域で積極的に役割を買って出っておられ、作業も円滑に進んでいました。

新任の先生方は、今年度は特に業務に慣れるのに多忙な状況でいらしたと思います。ワークショップの討論の内容を伺っていると、アドミッションポリシーの意図など、大学業務特有の概念についてまだ十分慣れていらっしやらないように見受けられました。先生がたによっては、本学にお越しになる前職が大学関係でない場合もあるので、大学運営特有の用語などは事前に便覧などで確認しておくようにお伝えしておいたほうが良いのではないかと思います。

リハビリテーション科学部  
教授 西澤 典子

本学に新たに雇用された教員に対して、「学生を中心とした教育をすすめるために—コロナ下における北海道医療大学のユニバーシティ・アイデンティティについて—」が主題となった。この度は、4月のFDが中止となり、夏のFDを基本編に当てたこと、さらに、全てをzoomによる遠隔会議によって行ったことが特徴であった。ワークショップにおいて私はワーキンググループのサポートだったのでその感想を述べる。

短時間における共同作業として皆さんよく協力して行っておられたと思う。また、ワークショップの目標としては 何らかの媒体を用いた大学アピールの材料を作ることであったが、原案から完成させるまで作業分担を行い、それぞれに得意分野を發揮しての協力作業となった。全員が一丸となり、ファシリテーターは作業の進行を見守るのみとなった。頼もしい限りである。

初めての遠隔会議での試みを成功に導いてくださった委員長ならびに事務方のご配慮に深く感謝いたします。

リハビリテーション科学部  
教授 山口 明彦

今年度の夏のFD研修は新型コロナの影響で4月に実施できなかった基礎編を実施することになった。ワークショップのテーマは、本大学のユニバーシティ・アイデンティティを提示し、アピールするということであった。午前中には学長から現状の北海道医療大学の特長についての説明があり、ワークショップのテーマの内容がその延長線上にあったことから研修全体の流れとしてもとてもスムーズであったと感じられた。ワークショップでは本大学の強みは何かについて活発な意見がなされるとともに、本大学がどんな取り組みをしているのか意見交換したが、時間が短いことや新しく入った教員の方々が本大学の取り組みについてあまり知らないために深い議論にならなかったように感じた。結局のところ、ユニバーシティ・アイデンティティを提示し、アピールするためには北海道医療大学がどのような取り組みをしているか、教員がもっと大学をよく知る必要があるということを実感した。このFD研修を機会に、北海道医療大学の強みや特長を理解し、大学、各学部、教員がどのような取り組みをしているか興味関心を持っていただければと感じた。

歯学部（国際交流推進センター）  
准教授 佐藤 圭史

今回は稚拙ながらも司会進行を務めさせて頂きました。長丁場であったため、二人で司会を分担したのは良い判断だったと思います。初めてのオンライン研修でしたが、各教員がオンラインの使用法に慣れた今の8月であったからこそ、全体的にスムーズに行ったことと感じております。研修そのものに関してですが、採用時のタイミングが合わなかったためか、今回の様な新任教員研修を私自身受けたことはなく、勤続5年目ながら研修内容を見たのは恥ずかしながら初めてでした。大学の概要/カリキュラム作成方法は、この勤務期間を通じて理解することが出来ましたが、このような機会があれば私も良かったと感じております。今後の教育活動に活かすべき、とても有益な講演・レクチャー内容でした。また、医療系の教員の先生方と知り合う機会は、私のような社会科学系の人間にとってほとんどないため、グループワークの設置は大変良いと思います。その上で、テーマに従い対話・議論を行う事が出来るのも良いと思いました。今回はオンラインでしたが、やはり対面で得られる情報（隣に座った人がどのような人か）や、簡単な雑談なども非常に大切だと思いますので、翌年度は緊急時でなければ、やはり対面が良いと感じました。

薬学部  
准教授 近藤 朋子

今年度より全学FD委員となり、初めての研修会で心もとない司会となりましたが、司会分担を申し出てくださった佐藤先生、荒川委員長他FD委員の先生方のご協力により何とか務めることができました。ありがとうございました。

午前に行われた浅香学長による講話では、日頃目にしない補助金や経営について、泉委員によるシラバス作成についての講演でも、再認識することもあり新人ではない私にも良い機会となりました。

午後には、ワークショップ「with コロナ時代のユニバーシティ・アイデンティティについて考える」というテーマでのワークショップが行われました。今回は4つのグループに分かれ、ブレイクアウトルームを利用した話し合いでしたが、私が参加したグループは、急遽欠席された先生が数名おり、他のグループより少人数であったため議論がなかなか進まず苦戦していました。ファシリテーターの先生のご助言などもあり、何とか発表をすることができました。今回初めて大学教員となるという先生には、短時間で大学のアイデンティティを明確にし、いかにアピールするかまで考えることが難しかったかもしれないと感じました。しかしながら、本研修会を通して、未だ先が見えない状況の中で、新たに本学の教員となる先生方同士が意見を出し合い、形を作るという経験をするのはとても意義のあることであると思いました。

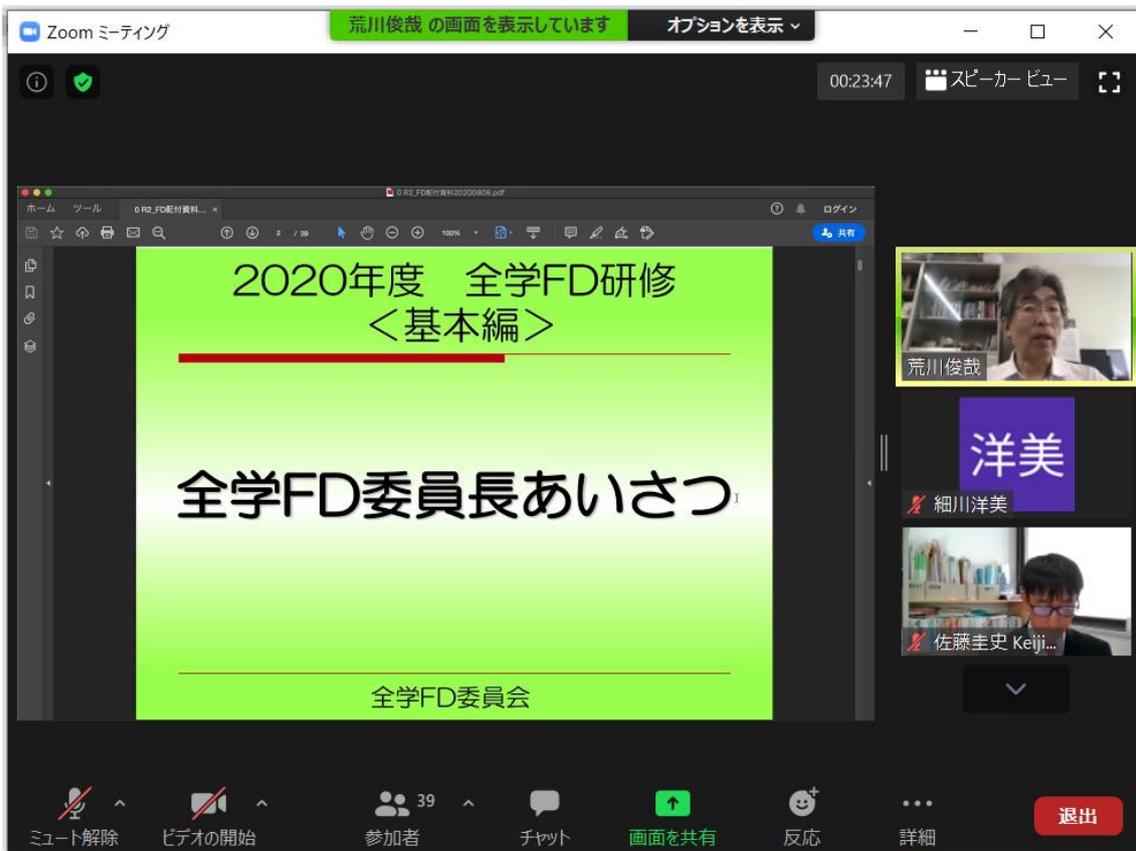
歯科衛生士専門学校  
専任教員 大山 静江

しばらくぶりにFD研修のファシリテーターとして参加した。今年度はCovid-19の影響で通常実施されていた対面形式とは異なり、オンラインに切り替わった。Zoomを利用して運営をするため、荒川委員長を筆頭にFD委員内で事前に練習をして実施に至った。初の試みということで心配もあったが、FD委員およびそれにかかわる事務職員の支援で何とか無事終了し、安心した。

ワークショップではDグループのファシリテーターをさせていただいたが、オンラインという形式の中、個人的にワークの方向性をうまく導き出せたかという課題が残る。

なお、参加者のアンケートを拝見すると、オンラインであっても他学部教員と交流ができたこと、それぞれの内容を知れたことを利点にあげている受講者も多くみられたため実施した意義はあったと思う。その反面、限られた時間の制約や慣れない方式でのワークショップであったため、いくつかの課題も挙がっていた。次回はどのような形式になるかまだ先が見えない状態であるが、今回の経験が活かされるに違いない。

# ア ル バ ム



荒川FD委員長の挨拶



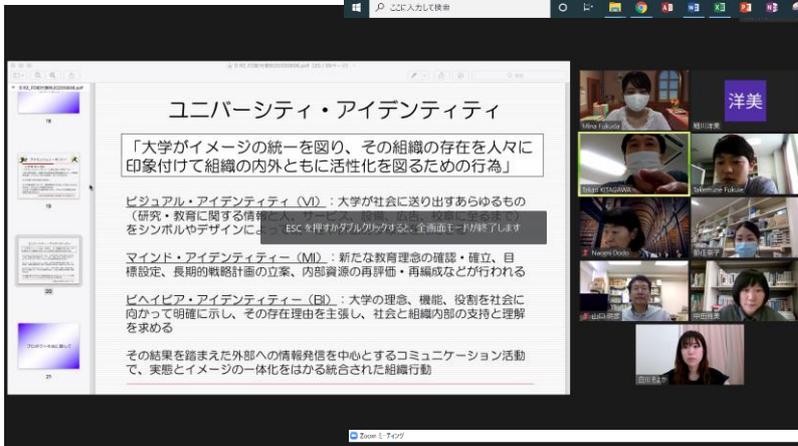
学長講話(浅香学長)





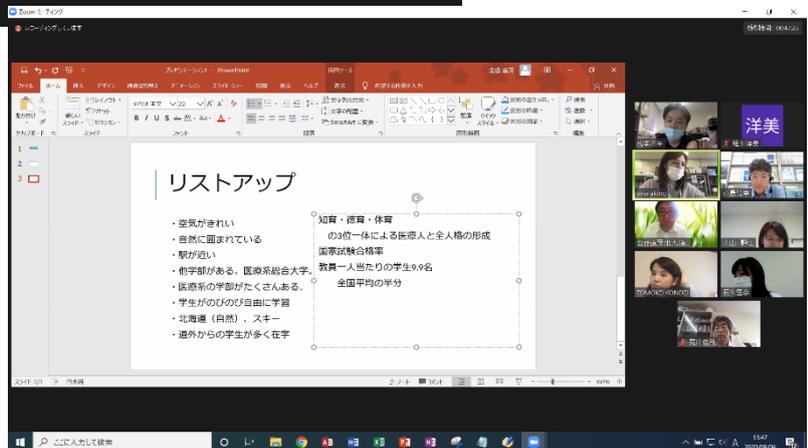
←ワークショップ  
(Aグループ)

ワークショップ→  
(Bグループ)



←ワークショップ  
(Cグループ)

ワークショップ→  
(Dグループ)





**特長のアピール**

- ・医療系の総合大学としては有数
- ・北海道では最も有名な医療大学
- ・定員一人当たりの学生数も全国平均より少ない、手厚い指導
- ・複数の学部、学科があることで、医療現場の強みが生まれる

→多職種連携

- ・1年生：全学部必修
- ・2年生以降：学部によって選択等
- ・4年生以降：全学連携地域包括ケア実践演習

←グループ発表  
(Cグループ)

**特長のアピール**

- ・国家試験対策
- ・全学教育推進センター

・インターネットの活用！

- ・SNS
- ・出前講義
- ・何より、教職員が本学のアピールポイントを理解していることが重要

グループ発表後の一  
質疑応答  
(Cグループ)

**本学のおすすめポイント**

- ・空気がきれい
- ・自然に囲まれている
- ・駅が近い
- ・他学部がある。医療系総合大学。
- ・医療系の学部がたくさんある。
- ・学生がのびのび自由に学習
- ・北海道（自然）、スキー
- ・道外からの学生が多く在学
- ・実習などでたくさんの人と関われる。

国家試験合格率  
職業によって異なる？  
高い合格率（徹底指導）

試験対策  
教員一人当たりの学生9.9名  
全国平均の半分  
多数の医療人を輩出  
半世紀近い歴史がある  
OB、OGが多い  
国際化 留学生の受け入れ

←グループ発表  
(Dグループ)

**本学のおすすめポイント**

- ・空気がきれい
- ・自然に囲まれている
- ・駅が近い
- ・他学部がある。医療系総合大学。
- ・医療系の学部がたくさんある。
- ・学生がのびのび自由に学習
- ・北海道（自然）、スキー
- ・道外からの学生が多く在学
- ・実習などでたくさんの人と関われる。

国家試験合格率  
職業によって異なる？  
高い合格率（徹底指導）

試験対策  
教員一人当たりの学生9.9名  
全国平均の半分  
多数の医療人を輩出  
半世紀近い歴史がある  
OB、OGが多い  
国際化 留学生の受け入れ

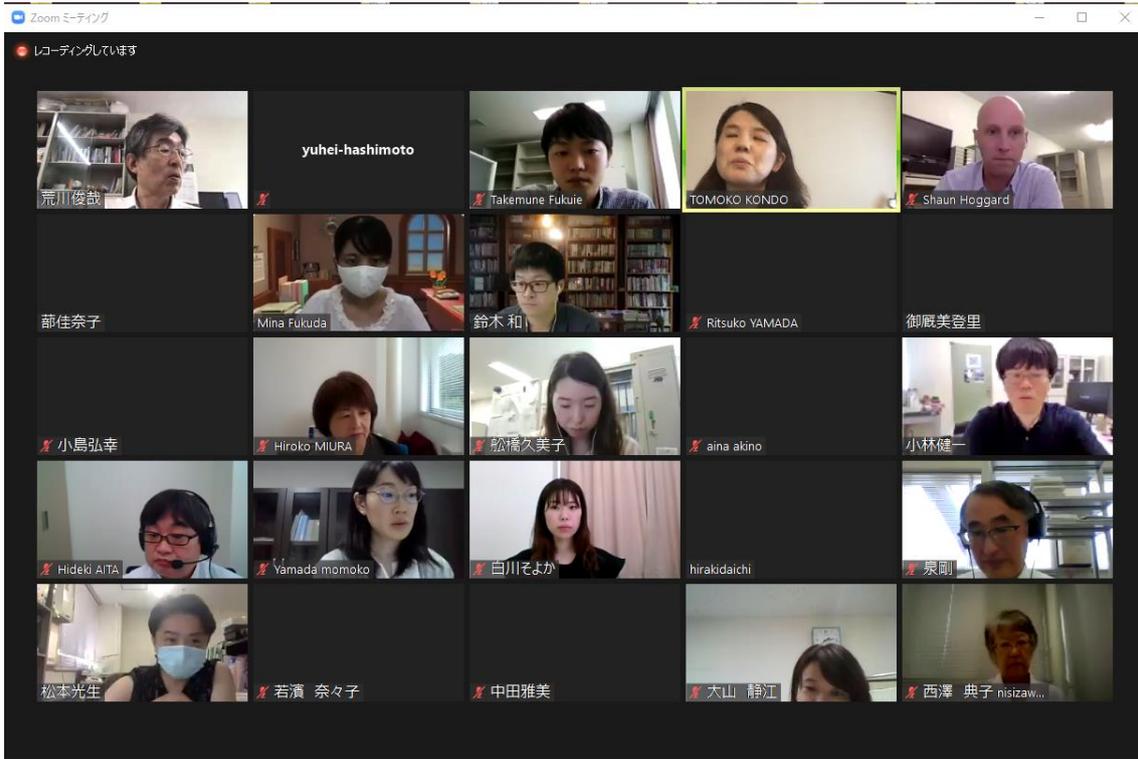
**本学のおすすめポイント**

- ・空気がきれい
- ・自然に囲まれている
- ・駅が近い
- ・他学部がある。医療系総合大学。
- ・医療系の学部がたくさんある。
- ・学生がのびのび自由に学習
- ・北海道（自然）、スキー
- ・道外からの学生が多く在学
- ・実習などでたくさんの人と関われる。

国家試験合格率  
職業によって異なる？  
高い合格率（徹底指導）

試験対策  
教員一人当たりの学生9.9名  
全国平均の半分  
多数の医療人を輩出  
半世紀近い歴史がある  
OB、OGが多い  
国際化 留学生の受け入れ

←グループ発表後の  
質疑応答  
(Dグループ)



## 総 評

# 全学FD研修[テーマ編]

「学生を中心とした  
教育をすすめるために」

-ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について-

期 日：2021年3月15日（月）

会 場：当別キャンパス [ZOOM開催]

## 目 次

---

### <テーマ編>

#### 北海道医療大学全学FD研修

学生を中心とした教育をすすめるために

-ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について-

はじめに	59
実施概要（趣旨など）	60
参加者名簿	61
学長講話	70
「北海道医療大学がめざす学生教育とは」	
	学長 浅香 正博
感染対策委員会委員長講演	74
「本学の感染対策～2020年度の新型コロナウイルス感染症に関する対応結果のまとめ～」	
	講師：感染対策委員会委員長 大村 一将
ワークショップの開催にあたって	80
	副学長 和田 啓爾
テーマとプロダクト作成の説明	82
	FD委員 心理科学部 今井 常晶
ワークショップの進め方とブレイクアウトルームの説明	84
	FD委員 看護福祉学部 山田 律子
ワークショップ（プロダクトと感想）	
1グループ	87
2グループ	89
3グループ	92
4グループ	95

F D 委員 感想	97
総合評価	102
アルバム	108

## はじめに

この度、コロナ禍で延び延びになっておりました全学FD研修会「テーマ編」を開催することが出来ましたこと安堵しております。

ご承知の通り、昨年の年始からの新型コロナウイルスの感染拡大により、あらゆる場所で三密を避けるべくソーシャルディスタンスが求められ、生活スタイルが一変致しました。大学の講義は三密の危険度の高い場所の一つとして早くから指摘され、その対策に苦勞することになった訳です。我々はこの一年間、学生の皆様には大きな制約と忍耐を強いることになってしまいましたが、事務スタッフの皆様の多大な協力の元、様々な試行錯誤を行いながら何とか大学教育を遂行してまいりました。そしてその苦勞の分だけ多くの新しい講義ノウハウを蓄積してきました。この経験を全学で共有し、来年度の講義にいかすべく、「ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について」をサブテーマに、FD研修会およびワークショップが開催されました。

午前の各学部の事例報告では、全ての学部で様々な創意工夫により講義が行われて来たことを知ることが出来ました。全ての学部で、学生の皆様がon line講義に好意的である事に驚きました。これを踏まえた午後のワークショップでは、4つのテーマ（1. コロナ禍における学生実習について、2. 対面授業実施時のオンデマンド講義の活用について、3. オンライン講義における学生の理解度のチェックについて、4. PC必携時のICTの活用について）で活発な議論がなされ、来年度の講義開始に向けて、非常に実りの多いプロダクトが作製されたことと思います。特に来年度からは全学部で1年生にPCが必携となりますので、多くの実践的なアイデアが提案されたことは、4月を目の前にとても参考になったと感じております。

最近やっと、感染数の減少が見られ、またワクチンの接種も進みつつありますが、新たな変異ウイルスの発見、拡散傾向も見られ、まだまだ余談を許さない状況は続いております。このワークショップを契機に、学生の皆様が、新しい生活スタイルの中で、より積極的にそしてより充実した学びの機会を得ることが出来ることを願っております。

2020（令和2）年度 全学FD研修〈テーマ編〉 実施概要

2021/3/5 現在

メインテーマ:	学生を中心とした教育を進めるために
サブテーマ:	ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について
主催:	全学FD委員会
開催日:	2021年3月15日（月） 9:00～16:55
開催場所:	Zoom
ディレクター:	荒川俊哉（全学FD委員会 委員長）
司会進行:	藏満保宏（全学FD委員会 委員）

スケジュール

		担当	
9:00	参加者集合	荒川委員長 藏満委員  浅香学長  大村感染対策委員会委員長  （各報告は15分以内） 中山 章 講師 越野 寿 教授／門 貴司 准教授 熊谷歌織 講師 福田実奈 助教 吉田 晋 教授 吉田 繁 教授 大山静江 専任教員	
9:10	開会 委員長挨拶		
9:15	日程確認、テーマ説明ほか		
9:20	学長講話 ＜北海道医療大学がめざす学生教育とは？＞		
9:55	感染対策委員会委員長講演 ＜本学の感染対策～2020年度の新型コロナウイルス感染症に関する対応結果のまとめ～＞		
10:25	＜事例報告＞ 2020年度の新型コロナウイルス禍における授業等の対応 薬学部（10:30～10:45） 歯学部（10:45～11:00） 看護福祉学部（11:00～11:15） 心理科学部（11:15～11:30） リハビリテーション科学部（11:30～11:45） 医療技術学部（11:45～12:00） 衛生士専門学校（12:00～12:15）		
12:15	＜質疑応答＞		
12:30	昼休憩		
13:15	ワークショップの開催にあたって		和田副学長（アドバイザー） 今井委員  山田委員  ≪ファシリテーター≫ オブザーバー：和田副学長、荒川委員長          和田副学長 荒川委員長
13:20	*テーマとプロダクト作成の説明（10分）		
13:30	*ワークショップの進め方と ブレイクアウトルームの説明（10分）		
13:40	ブレイクアウトルーム入室 *アイスブレイキング／参加者自己紹介		
13:55	*役割分担（記録・発表） グループワーク（110分） 1グループ・・・1） 2グループ・・・2） 3グループ・・・3） 4グループ・・・4）		
15:45	休憩（10分）		
15:55	グループ発表・質疑応答・全体討議 1グループ（10分×4）		
16:35	アンケート（GoogleForm）		
16:45	和田副学長コメント		
16:50	全学FD委員長挨拶総評		
16:55	ワークショップ参加者アンケート 閉会		

- 1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
  - 2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
  - 3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
  - 4) PC 必携時の ICT の活用について

<ワークショップ参加者名簿>

所属	氏名	テーマ
薬学部	中山 章	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
薬学部	新岡 丈治	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
歯学部	越野 寿	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
歯学部	門 貴司	4) PC必携時のICTの活用について
看護福祉学部	内ヶ島伸也	4) PC必携時のICTの活用について
看護福祉学部	高木 由希	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
看護福祉学部	池森 康裕	4) PC必携時のICTの活用について
看護福祉学部	松本 望	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
心理科学部	西郷 達雄	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
心理科学部	河村 麻果	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
リハビリテーション科学部	長谷川純子	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
リハビリテーション科学部	中村 宅雄	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
リハビリテーション科学部	桜庭 聡	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
リハビリテーション科学部	山田 桃子	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
リハビリテーション科学部	橋本 竜作	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
リハビリテーション科学部	飯泉 智子	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
医療技術学部	吉田 繁	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
医療技術学部	近藤 啓	4) PC必携時のICTの活用について
歯科衛生士専門学校	秋元 奈美	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について

<FD委員>

所属	氏名	テーマ
薬学部	泉 剛	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
薬研究科	小 島 弘 幸	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
歯学部	會 田 英 紀	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
看護福祉学部	山 田 律 子	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
看護福祉学研究科	濱 田 淳 一	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
心理科学部	百 々 尚 美	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
心理科学研究科	今 井 常 晶	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
リハビリテーション科学研究科	山 口 明 彦	4) PC必携時のICTの活用について
医療技術学部	藏 満 保 宏	1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
医療技術学部	坊 垣 暁 之	4) PC必携時のICTの活用について
全学教育推進センター	佐 藤 圭 史	4) PC必携時のICTの活用について
全学教育推進センター	近 藤 朋 子	3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
歯科衛生士専門学校専任教員	大 山 静 江	2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について

アドバイザー

氏名（所属等）	
副学長	和 田 啓 爾
歯学研究科	荒 川 俊 哉

2020（令和2）年度年度 F D研修（テーマ編）参加F D委員

2021/3/15

	氏名（所属等）	
委員長	荒川 俊哉（教授・歯学研究科F D委員長）	挨拶・総評
委員	泉 剛（教授・薬学部F D委員長）	1) ファシリテーター
	小島 弘幸（教授・薬研究科F D委員長）	3) ファシリテーター
	會田 英紀（教授・歯学部F D委員長）	3) ファシリテーター
	山田 律子（教授・看護福祉学部F D委員長）	ブレイクアウトルーム説明 1) ファシリテーター
	濱田 淳一（教授・看護福祉学研究科F D委員長）	2) ファシリテーター
	百々 尚美（教授・心理科学部F D委員長）	2) ファシリテーター
	今井 常晶（准教授・心理科学研究科F D委員）	プロダクト作成説明 1) ファシリテーター
	山口 明彦（教授・リハビリテーション科学研究科F D委員長）	4) ファシリテーター
	藏 満保宏（教授・医療技術学部F D委員長）	司会進行
	坊垣 暁之（教授・医療技術学部F D委員）	4) ファシリテーター
	佐藤 圭史（准教授・全学教育推進センター FD担当）	午後から参加
	近藤 朋子（准教授・全学教育推進センター FD担当）	3) ファシリテーター
	大山 静江（歯科衛生士専門学校専任教員）	2) ファシリテーター
		以上14名

	氏名（所属等）	当日役割等
	和田啓爾 副学長	アドバイザー ワークショップ挨拶、コメント

## 2020年度 全学FD研修 <テーマ編>

学生を中心とした教育を  
すすめるために

～ポストコロナにおける  
新たな授業スタイルのあり方～



主催：全学FD委員会

2020年3月15日（月） Zoom Meeting

## 研修会開催の趣旨

### 研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

## 研修会スケジュール

### 研修スケジュール

- 9:10 開会 委員長あいさつ  
テーマ説明、スケジュール説明ほか
- 9:20 学長講話 2021年の授業実施に関して 浅香学長
- 9:55 感染対策委員会委員長講演 大村感染対策委員長
- 10:25 事例報告「新型コロナウイルスにおける授業実施の対応」  
①薬学部 ②歯学部 ③看護福祉学部 ④心理科学部 ⑤リハビリテーション科学部  
⑥医療技術学部 ⑦歯科衛生士専門学校
- 12:15 質疑応答
- 12:30 昼休憩
- 12:05 昼食・休憩
- 13:15 ワークショップ  
テーマとプログラム作成の説明、ブレイクアウトルームの説明
- 13:35 ブレイクアウトルーム入室（ワークショップ開始）  
ワークショップテーマは各グループごと
- 15:45 ワークショップ終了
- 15:45 休憩
- 15:55 グループ発表・質疑応答、全体討議（1グループ10分）
- 16:35 和田副学長コメント・FD委員長総評  
アンケートの実施
- 16:55 閉会

### 学長講話

北海道医療大学 学長 浅香 正博

北海道医療大学がめざす  
学生教育とは？

## 感染対策委員長講演

北海道医療大学  
感染対策委員会 委員長 大村一将

### 本学の感染対策

～2020年度の新型コロナウイルス  
感染症に関する対応結果のまとめ～

## 事例報告

### 2020年度における 各学部の授業対応

- ◇薬学部・・・・・・・・・・中山講師
- ◇歯学部・・・・・・・・・・越野教授/門准教授
- ◇看護福祉学部・・・・・・・・熊谷講師
- ◇心理科学部・・・・・・・・福田助教
- ◇リハビリテーション科学部・・・・吉田晋教授
- ◇医療技術学部・・・・・・・・吉田繁教授
- ◇歯科衛生士専門学校・・・・大山専任教員

## 昼食・休憩



午後のワークショップの開始時間

**13:15** (時間厳守)

Zoomに『サイン・イン』をした上で  
入室してください。

## 2020年度 全学FD研修(テーマ編)

### ワークショップ

ポストコロナにおける  
新たな授業スタイルのあり方



主催：全学FD委員会



2020年3月15日(月) ZoomMeeting

## 和田副学長あいさつ

### 2020年度全学FD研修(テーマ編)

メインテーマ：学生を中心とした教育を進めるために

サブテーマ：ポストコロナにおける新たな授業スタイル  
のあり方について



Health Sciences University of Hokkaido

2021年3月15日(月) 副学長 和田

## 教育改革の流れ

2021年大学入試から、センター試験が「大学入学共通テスト」に変わりました。

理念 単なる入試の技術的問題の改革ではありません

運動した教育改革

学習指導要領の改革 → 高大接続

### 1. 知識及び技能

旧 基礎的な「知識・技能」

新 実際の社会や社会の中で生きて働く「知識・技能」

### 2. 思考力・判断力・表現力等

旧 知識及び技能を活用し、「自ら考え、判断し、表現する力」

新 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」

### 3. 学習態度

旧 学習に取り組む意欲

新 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

「2020年からの新しい学力」石川一郎著 SB新書

# ワークショップ解説

## テーマ説明と プロダクトの作成

## <ワークショップ>

### 【サブテーマ】

### ポストコロナにおける

### 新たな授業スタイルのあり方について

新型コロナウイルス感染症は、人との接触を大きく制限したため、授業形態を変えることとなり、これまで実践したことのない授業スタイルに変更せざるを得ない状況でした。次年度においてもそれを受け入れることによる、新たな授業スタイルのあり方を考えます。

## <ワークショップ>

### ポストコロナにおける

### 新たな授業スタイルのあり方について

### 【ワークショップのテーマ】

新たな授業スタイルのあり方を考えるうえで、今年度の授業において課題となった点、次年度以降に新たに対応していく点などを踏まえ、4つのテーマを設定しました。

## <テーマ説明>

- 1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
- 2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
- 3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
- 4) PC必携時のICTの活用について

## <来年度の授業実施の基本方針>

### 来年度の授業形態

「対面を基本とし、一部遠隔を活用する」授業形態を継続

→必要な感染対策を実施し、座席は1mを目安に教室内で可能な限り間隔をとるよう着席させる(施設の状況に合わせて柔軟に対応)

## 【作業目標】

- 午前の事例報告等のあった、各学部、学校の新型コロナウイルス感染症の予防、拡大防止対策として講じた工夫を共有してください。
- 次年度以降の授業において、できるだけ実現可能な具体的なプロダクトの作成を目標としてください。
- プロダクトは、グループ発表において提案願います。

## プロダクト作成に際して

### プロダクトの作成に際して

- グループ発表の資料（プロダクトの作成）は、パワーポイント、ワードなどを使用してください。  
(プロダクト作成に使用するソフトは問いません)
- 次年度当初は、現在と変わらない授業の対応が求められます。次年度以降に向けて、各テーマにおける新たな可能性、新たな試みを実現するために必要なことを考えてみてください。
- 学生中心とした教育を進めるための「新たな授業スタイルのあり方」の提案になります。従来とは異なる環境において、本学の授業（実習）に適した、新たな授業スタイルの展開を提案してください。

### 参考資料

本学の基本方針  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/basic-policy.html>  
教育理念・目的・目標・行動指針※便覧  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/rinen.html>  
大学の三方針(ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー)※便覧  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/policy.html>  
シラバス(冊子あり/学部別)  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus.html>  
学生便覧(冊子あり)  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibiran/index.html>  
北海道医療大学学則※便覧  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/gakusoku.html>  
学校法人東日本学園 中期計画  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/keikaku.html>  
本学の取り組み  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/torikumi.html>



2020年度 全学FD研修 <テーマ編>

## ワークショップの進め方 ブレイクアウトルームの説明

2021年3月15日(月曜日) Zoom研修会

主催：全学FD委員会

担当：山田律子(看護福祉学部・FD委員)

### ワークショップの流れ

- 13:15 - 13:20 ワークショップの開催にあたって  
(和田副学長)
- 13:20 - 13:30 導入講義と作業課題 (今井委員)
- 13:30 - 13:40 ワークショップの進め方と  
ブレイクアウトルームの説明 (山田)
- 13:40 - 13:55 **ブレイクアウトルーム入室**  
\*アイスブレイキングと自己紹介  
\*役割分担(リーダー・記録・発表)
- 13:55 - 15:45 **ワークショップ**(各グループ 110分)
- 15:45 - 15:55 休憩
- 15:55 - 16:35 **発表・質疑応答**(各グループ 10分×4G)
- 15:35 - 15:45 PC必携と今後のPC活用法等(和田副学長)
- 15:45 - 15:50 全学FD委員長挨拶(総括)
- 16:50 - 16:55 アンケート(Google Form)記入・閉会

## ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて？



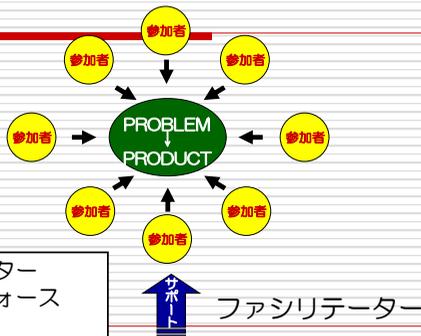
## ワークショップとは？



・ 多人数を対象として、**参加者1人1人の参画意識を高める**ために、**小グループ**に分かれて**討論と作業**を行い、**結論**を出していく方式をいう。

・ **一定の時間内**にある**成果(プロダクト)**を生み出すという手段をとる。

## ワークショップとは？



## ワークショップの流れ

### 1. プレナリーセッション



全体 : 導入講義・作業課題



### 2. スモールグループディスカッション (110分)



グループ別 : 課題について討論・プロダクト作成



### 3. プレゼンテーション (1グループの持ち時間10分)



グループ別 : 発表・質疑応答

## ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が Resource Person(主役)
3. 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
4. どんな質問・意見でも無意味ではない  
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった正解はない
6. 先生はいない
7. 時間を守る



イラスト：富士研WSスライドより

これは歓迎しません… (+o+)



### スモールグループディスカッション

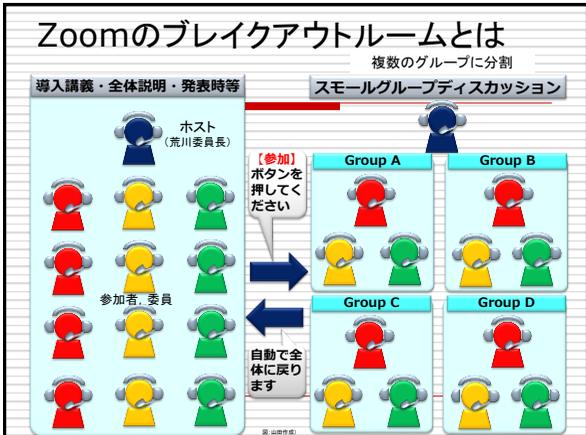
1. 参加者の自己紹介(1分程)  
(アイスブレイク：氏名・所属・私のいち押し、「実は私〇〇です」、Good & New[24時間以内にあった"良かったこと Good"や"新しい発見New"]など)
2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)
3. グループ名の決定
4. グループ討論・発表内容の確認

### 役割

- 司会 . . . . . [ ]
  - グループ討論時の司会進行を行う。
- 書記・PC入力 . . . [ ]
  - グループ討論時、Zoomで画面共有しながら書記(PC入力)を行う(プロダクト作成)
  - 作成したプロダクトはUSBに保存する。
- 発表者 . . . . . [ ]
  - 全体発表時にグループプロダクトをZoomで画面共有して、発表を行う。

---

- タスクフォース (TF)
  - グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
  - グループ討論のタイムキーパーも行う。



## 休憩

休憩時間 15:45~15:55  
(時間厳守でお願いします)

**15:55** までに、  
再入室してください。  
【次はグループ発表になります】

## グループ発表

## 和田副学長コメント

## 全学FD委員長総評

## 提出物について

- WSの成果として、グループで作成したプロダクトをまとめてください（任意様式）。ボリューム（分量）などに特に制約はありません。
- グループ代表の感想WSについての感想を、400字程度でまとめてください。
- 全学FD委員の感想全学FD委員としての感想を、400字程度でまとめてください。

### 提出期限・提出先

- 提出期限：3月31日（水）
- 提出先：学務部教務企画課 FD研修担当  
\* fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

## アンケート

お疲れさまでした



<https://forms.gle/HMtKsT65dfnaHMkP9>

## 学長講話

北海道医療大学がめざす学生教育とは？

## 北海道医療大学がめざす学生教育とは？

北海道医療大学 学長  
浅香正博

## 建学の理念

知育・徳育・体育 三位一体による  
医療人としての全人格の完成

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を養成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献することを教育理念とする。

## 本学における学生教育への対応

- 教育の質の向上と、教育内容・方法の充実**  
2007年4月 大学教育の総合的検討・立案・実行する「大学教育開発センター」設置  
2019年4月より、**全学教育推進センター**に名称変更
- 教員の自己評価と学生の評価**  
教員評価制度(2007年から実施)と評価結果の利用  
学生による授業アンケート(1993年度から実施)
- 充実した学生生活の確保**  
Student Campus Presidents (SCP)の導入(2008年度から実施)

## 北海道医療大学教育の3方針

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。
2. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」からなる学士課程教育を組んでいる。

### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

各学部・学科の教育理念・目標に沿った学士課程の授業科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識を身につけ、かつ各学部が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与する。

### 国家試験の合格率を上げる

- ・ 入り口対策  
入試の際、優秀な学生を集める。  
医療大学のブランド性を上昇させる。  
国試の合格率が高い。  
特別な教育体制を構築する。  
北海道だけでなく、全国から受験生を集める。
- ・ 出口対策  
国試対策をきめ細かく行う。短期間合宿など。  
優秀大学の教育システムを学び応用する。  
魅力的な授業を行う。

## 進学目的・入学後の学習意欲

### 進学動機

<b>将来目標型</b>	48%
一般教養を身につけたい	11%
専門知識を身につけたい	57%
学問・研究による真理探究	19%
<b>近未来目標型</b>	35%
資格免許取得、就職に有利な学歴	51%
<b>楽しみ・無目的型</b>	18%
とくに目的はない	12%
青春をエンジョイ	12%
スポーツ・文化活動	4%
友人を得る	4%

### 大学に入って学習意欲が高まったか？

高まった	13%
かなり高まった	3%
低くなった	37%
かなり低くなった	21%
わからない	26%

## 医学、医療とは？

- 病気があって**医学**が生まれ、病人のために**医療**がある。
- **医学**とは学問のことであり、病気の種類や治療法などを研究したり学んだりすることである。それに対して、**医療**は実際に患者に対して施す治療のことを指す。
- **医学**は科学である。しかし、**医療**は科学ではなくアートである。

## 日本の医療の特徴

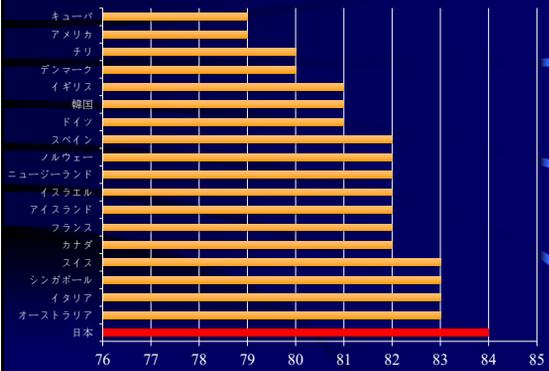
- 世界一の長寿国であり、乳児死亡率も世界一低い。
- **医療の質が高い。**
- **医療費が安い。**・・・国民皆保険制度のおかげ
- **アクセスが自由である。**・・・大学病院にも紹介状なしでかけられる。
- 先進国中、総医療費(対GDP比)は最も低い。

## 盲腸手術の入院費用総額(AIU保険調べ)

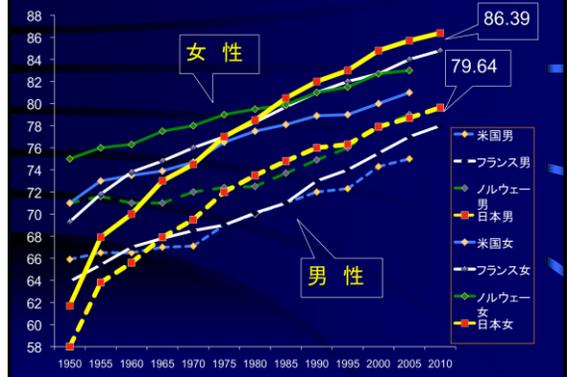
- 日本：手術後5日入院：30万円  
(支払いは10万円弱)
- 香港：手術後4日入院：152万円
- 英国：手術後5日入院：114万円
- 米国：手術後1日入院：220万円

**米国ニューヨーク病院の個室の費用は、1日15万円からである。**

## 平均寿命(2014)



## 主要先進国における平均寿命の推移



## 主な国の健康寿命

WHO 2015年

日本	74.9歳 (1)
韓国	73.2歳 (3)
フランス	72.6歳 (7)

わが国は平均寿命のみならず健康寿命においても世界一である。

ロシア	69.5歳 (104)
シエラレオネ	44.4歳 (183)

カッコ内は183カ国中の順位

## 医療提供体制のわが国の現状

- ・ ベッド数は多く、在院日数が長い。  
出来高払いでは機能していたが、DPCでは収入減が必至。
- ・ ベッドあたりの医師数、看護師数が極端に少ない。
- ・ 欧米の病院に比して、患者の管理に十分なマンパワーが不足している。
- ・ コロナウイルス感染症対策へのわが国の医療の問題点が露呈された。

## 日本の医療のもう一つの問題点

ー チーム医療についてー

- ・ チーム医療とは、一人の患者に複数のメディカルスタッフ(医療専門職)が連携して、治療やケアに当たることである。
- ・ 病院では、様々な職種のメディカルスタッフが働いている。

## 多職種連携

- ・ こうした異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することで、
- ・ 入院中や外来通院中の患者の生活の質(QOL)の維持・向上、患者の人生観を尊重した療養の実現をサポートすることが重要である。
- ・ これが多職種連携の真の目的である。

## 多職種連携によるチーム医療とは？

- ・ 従来は医師が中心となって医療業務を形成していたが、近年は医師の下につくのではなく、それぞれの医療従事者が互いにフィードバックしながら医療を行い、最善の医療を施すという考え方に変わってきている。
- ・ 医師とコメディカルとの壁も取り去り医療チームを作り、医療を行うというのが現在の主流になってきた。

## 緒方洪庵の医戒抜粋

- ・ 医の世に生活するは人の為のみ、おのれがためにあらずといふことを其業の本旨とす。
- ・ 安逸を思はず、名利を顧みず、唯おのれをすて、人を救はんことを希ふべし。
- ・ 人の生命を保全し、人の疾病を復治し、人の患苦を寛解する外他事あるものにあらず。

講 話

## 本学の感染対策

～2020年度の新型コロナウイルス感染症

に関する対応のまとめ～

# 本学の感染対策 ～ 2020年度の新型コロナウイルス 感染症に関する対応のまとめ～

感染対策委員長 大村一将

主催：全学FD委員会 令和2年度全学FD研修<テーマ編>

## はじめに

- 新型コロナウイルス感染症によって、2020年は生活様式も一変し、教育現場でも未だかつて無い対応が求められた。
- 教育現場で感染を拡散させないため「もちこませない」「ひろげない」対策をこの一年間実践していただいた。
- 今年度の対策がどの程度の効果があったのか、本学の感染対応状況のデータを基に考えていきたい。
- 感染対策で見落としやすい点、特に注意が必要な点を再確認し、教職員の皆様の現場にお役立てください。

## 目次

### 本学の感染対策と事例報告

- 基本的な感染予防
- 健康管理（体調記録と連絡フォーム）
- 学修環境での対応（講義室等での対応）
- 飲食に関わる対応
- 臨床実習等にかかわる対策（唾液PCR検査等）
- 感染対策の情報へのアクセス

### ◆ 今回の目的

本学の感染対策と、実際に発生した新型コロナウイルス陽性事例を通じて、教育現場で必要な対応方法について情報を共有する

## 基本的な感染予防 ～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

産業衛生的な考え方で学内での感染予防を考えると・・・

- 優先順 ↑
1. 暴露発生源（ウイルス）を排除する、密閉する  
→ 健康管理、マスク、手指衛生（いずれも完全ではない）
  2. 作業環境で対策する（遮蔽、距離確保、換気・排気、時間短縮等）  
→ 遮蔽板、身体的距離、3密の回避、換気、接触時間の短縮
  3. 保護具等で対応する  
→ （マスク）、フェイスシールド、保護メガネ、手袋など  
正しく使用しないと暴露が生じてしまう
- 最終手段 ↓

## 基本的な感染予防 ～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

- ①. 手洗い（石鹸）または手指消毒の徹底
- ②. マスク着用、咳エチケットの徹底
- ③. 身体的距離（最低1m）の確保



## 基本的な感染予防 ～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

- ✓ 適切な手洗い、手指消毒の指導
- ✓ 正しいマスクの装着方法

特に上記について、学生へのご指導をお願いいたします。



## 健康管理 ～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

◆**体温測定と体調管理**

- 毎日朝夕の体温測定と健康状態の確認
- 体調確認表への記入
- 体調に異常を感じたら、迷わず「勇気ある自宅待機（休養）」を選択し、大学へ連絡する
- 濃厚接触者に該当した、PCR検査等を受けた、自宅待機を指示された等の場合にも連絡を
  - 講義や試験には出席できない
  - 保健センターで自宅療養証明書を発行（公欠扱い）

新型コロナウイルス感染症の主な症状



1つでも当てはまったら  
「**新型コロナ連絡フォーム**」から  
大学へ連絡し、**自宅で休養**

感染予防動画スライドより引用

## 新型コロナ連絡フォーム

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~shien/coronavirus/>

◆**アクセス方法**



## 新型コロナ連絡フォーム

◆**報告内容 (2020/9/3～2021/3/1)**

□ 報告件数 2599

薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部	医療技術学部	歯科衛生士専門学校	歯科クリニック	大学病院、事務局、その他
報告件数	666	379	633	126	337	66	137	192
うち学生	648	345	572	118	324	49	131	62

来年度も感染疑い例等が同程度発生すると考えてよい

## 新型コロナ連絡フォーム

◆**報告内容の詳細**

□ 報告件数 2599

□ 濃厚接触者に関わる報告 275件

□ PCR検査等に関わる報告 92件

□ 同居の家族に関わる報告 241件（北海道「警戒ステージ3」以降 11/17～）  
（うちPCR検査、濃厚接触、感染者の報告 177件）

□ 自宅療養証明書を発行した件数  
学生 534 職員 115

報告件数	薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部	医療技術学部	歯科衛生士専門学校	歯科クリニック	大学病院、事務局、その他
濃厚接触者	666	379	633	126	337	66	137	192	62
PCR検査等	648	345	572	118	324	49	131		

## 健康管理 ～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

◆**新型コロナ連絡フォームから届いた情報について**

- 保健センターはすべてのメールを受け取る
- 同時に送信者に対応した関係部署へも送られる
- フォームからの情報に基づき、教務担当部署、保健センター、学生支援課（人事課）から送信者と連絡をとることで個別対応を行う
- 各部署がそれぞれ同時に情報を得ることで迅速な対応が可能となっている

今後も連絡フォームを活用してください。

## 基本的な感染予防、健康管理 ～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

- ✓ 新型コロナウイルス感染症は、発症する2日前から感染力があります。
- ✓ 体調の良し悪しによらずマスク、手指衛生の実施が重要です。
- ✓ 健康管理による対策は、「もちこまない」「ひろげない」対策として、現実的で継続可能な対策と考えられます。
- ✓ 本対応の継続によって、公欠者が今後も一定数発生し学習計画に支障がでる可能性はございますが、運用にどうぞご理解をお願いいたします。

# 目次

## 本学の感染対策と事例報告

- 基本的な感染予防
- 健康管理（体調記録と連絡フォーム）
- 学修環境での対応（講義室等での対応）
- 飲食に関わる対応
- 臨床実習等にかかわる対策（唾液PCR検査等）
- 感染対策の情報へのアクセス

### ◆今回の目的

本学の感染対策と、実際に発生した新型コロナウイルス陽性事例を通じて、必要な対応方法について情報を共有する

## 学修環境での対応（講義室等）

新型コロナウイルス感染症の発生・拡大防止と学修環境の感染防止を図るための対応策を、学修環境での対応（講義室等）としてまとめました。本学では、学修環境での対応（講義室等）として、以下の対応策を実施しています。

1. 学修環境での対応（講義室等）
  - ① 換気：常時開放扉（部分）の確保
  - ② 換気方法の提示（常時、30分に1回2-5分程度等）
  - ③ 空気環境測定（CO<sub>2</sub>濃度測定）による評価
2. 講義室、通路等での対応
  - ① JR指定等の分散登校、ハイブリッド講義
  - ② 座席の指定
  - ③ 常時マスク着用、手指衛生の徹底

## 学修環境での対応（講義室等）

1. 講義室環境の対応
  - 常時開放扉（部分）の確保
  - 換気方法の提示（常時、30分に1回2-5分程度等）
  - 空気環境測定（CO<sub>2</sub>濃度測定）による評価
2. 講義室、通路等での対応
  - JR指定等の分散登校、ハイブリッド講義
  - 座席の指定
  - 常時マスク着用、手指衛生の徹底



## 本学での感染 18 例の感染経路

▶ 本学でこれまでに18例の新型コロナウイルス感染者が発生しました（2021年3月12日現在）。

- 感染経路不明 7例
- 飲食による接触 3例
- 家族内 5例
- アルバイト先 2例
- 学外の友人 1例

## 新型コロナウイルス感染発生時の対応

- ▶ 本学でこれまでに18例の新型コロナウイルス感染者が発生しました（2021年3月12日現在）。
- ▶ 感染判明後、行動歴等をまとめて感染者と関係したものをすべて抽出する。
  - 保健所と情報を共有し接触状況に応じて濃厚接触に該当する範囲が決まる（特定が完了するまでの間は関係した者は濃厚接触に準じた扱いをする）
  - 所属学部（部署）、保健センターで対応を決定する

**濃厚接触者**：新型コロナウイルス感染症と確定した者でなおかつマスク等の感染予防措置が行われていない者と手で触れることのできる距離（目安として1m）で15分以上接触した者、気道が密着（くしゃみや涙、痰など）、体露、糞便などの汚染物に触れた者、その処理作業に携わった者、新型コロナウイルス感染者の診察、看護、介護した者。なお、濃厚接触の判断は各自で判断して差し支えない。（本学【新型コロナウイルス感染症に対する基本対応方針】より抜粋）

## 学修環境での対応例（事例1-3）

- ▶ 本学でこれまでに18例の新型コロナウイルス感染者が発生しました（2021年3月12日現在）。
- ▶ うち感染者あるいはのちに感染が確定するものが講義室で授業を受けていた事例は、3例（他に個別指導を行っていた事例は、2例）。
- ▶ 実際に濃厚接触に該当した要因：
  - 身体的距離（座席配置）、マスク（食事）

## 学修環境での対応（事例1－3）

■ 実際の濃厚接触該当例：

- 座席間の距離によって、一律に濃厚接触者と判定される
  - ✓ 事例1で8例、事例2で2例、事例3で8例が該当（個別指導例では、3例が該当）

- 講義室の大きさ等の問題から、濃厚接触者を0にすることが難しい
- 文科省等から示された身体的距離を確保しながら、可能な限り身体的距離をとる対応であれば可能と思われる

● 感染者 ● 濃厚接触者

- マスク未着用、集団での飲食などの接触による判定
  - ✓ 2つの事例で併せて12例が該当

- 極めて感染リスクが高い事例
- 常時マスク装着、食事に関する指導の徹底で対応する

## 目次

### 本学の感染対策と事例報告

- 基本的な感染予防
- 健康管理（体調記録と連絡フォーム）
- 学修環境での対応（講義室等での対応）
- 飲食に関わる対応
- 臨床実習等にかかわる対策（唾液PCR検査等）
- 感染対策の情報へのアクセス

◆ 今回の目的

本学の感染対策と、実際に発生した新型コロナウイルス陽性事例を通じて、必要な対応方法について情報を共有する

## 飲食に関わる対応

③. 飲食に関連する対応

- JR車内での飲食の自粛
- 食事前の手洗い、身体的距離と対面の禁止
- 食事中の会話は控える
- マスクを外す時間を最小限にする指導
- マスク非着用時の咳エチケットの徹底

上記の指導とともに、昼食時に学内放送で注意喚起を行っている

学生感染予防ガイダンス資料より引用

## 飲食に関わる対応（事例4－8）

➢ 18例のうち、感染者あるいはのちに感染が確定したものの**飲食によって濃厚接触者に発生したのが7例**

■ 実際の濃厚接触該当例：

- 学内での指定外の飲食 10例（うち1例は感染）
- 学内での昼食時 7例
- 学外での飲食 2例（うち1例は感染）

- 食事に関する感染対策が極めて重要である

## 学修環境、飲食に関わる対応

- ✓ 基本となる手指衛生、常時マスク着用の適切な実施
- ✓ 講義室の大きさ等により確保できる身体的距離には限界がある。
- ✓ 換気については現行の対策で適切な換気が得られている。
- ✓ 飲食に関連してクラスターが発生しうる事例もあった。
- ✓ 食事に関わる対策が「ひろげない」対策として最重要と考えられる。

## 目次

### 本学の感染対策と事例報告

- 基本的な感染予防
- 健康管理（体調記録と連絡フォーム）
- 学修環境での対応（講義室等での対応）
- 飲食に関わる対応
- 臨床実習等にかかわる対策（唾液PCR検査等）
- 感染対策の情報へのアクセス

◆ 今回の目的

本学の感染対策と、実際に発生した新型コロナウイルス陽性事例を通じて、必要な対応方法について情報を共有する



# ワークショップ

## 2020年度全学FD研修(テーマ編)

メインテーマ：学生を中心とした教育を進めるために

サブテーマ：ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について

2021年3月15日(月) 副学長 和田



Health Sciences University of Hokkaido

## 教育改革の流れ

2021年大学入試から、センター試験が「大学入学共通テスト」に代わりました。

理念 単なる入試の技術的問題の改革ではありません

連動した教育改革

学習指導要領の改革 → 高大接続

### 1. 知識及び技能

旧 基礎的な「知識・技能」

新 実際の社会や社会の中で生きて働く「知識・技能」

### 2. 思考力・判断力・表現力等

旧 知識及び技能を活用し、「自ら考え、判断し、表現する力」

新 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」

### 3. 学習態度

旧 学習に取り組む意欲

新 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

「2020年からの新しい学力」石川一郎著 SB新書



Health Sciences University of Hokkaido

# ワークショップ解説

## テーマ説明と プロダクトの作成

### <ワークショップ>

#### 【サブテーマ】

#### ポストコロナにおける

#### 新たな授業スタイルのあり方について

新型コロナウイルス感染症は、人との接触を大きく制限したため、授業形態を変えることとなり、これまで実践したことのない授業スタイルに変更せざるを得ない状況でした。次年度においてもそれを受け入れることによる、新たな授業スタイルのあり方を考えます。

### <ワークショップ>

#### ポストコロナにおける

#### 新たな授業スタイルのあり方について

#### 【ワークショップのテーマ】

新たな授業スタイルのあり方を考えるうえで、今年度の授業において課題となった点、次年度以降に新たに対応していく点などを踏まえ、4つのテーマを設定しました。

### <テーマ説明>

- 1) コロナ禍における学生実習（学内の実習）について
- 2) 対面授業実施時のオンデマンドの活用について
- 3) オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について
- 4) PC必携時のICTの活用について

### <来年度の授業実施の基本方針>

#### 来年度の授業形態

#### 「対面を基本とし、一部遠隔を活用する」授業形態を継続

→必要な感染対策を実施し、座席は1mを目安に教室内で可能な限り間隔をとるよう着席させる（施設の状況に合わせて柔軟に対応）

令和2年度第11回学部長会議（2021年3月2日）より

### 【作業目標】

- 午前の事例報告等があった、各学部、学校の新型コロナウイルス感染症の予防、拡大防止対策として講じた工夫を共有してください。
- 次年度以降の授業において、できるだけ実現可能な具体的なプロダクトの作成を目標としてください。
- プロダクトは、グループ発表において提案願います。

## プロダクト作成に際して

### プロダクトの作成に際して

- ・グループ発表の資料（プロダクトの作成）は、パワーポイント、ワードなどを使用してください。  
(プロダクト作成に使用するソフトは問いません)
- ・次年度当初は、現在と変わらない授業の対応が求められます。次年度以降に向けて、各テーマにおける新たな可能性、新たな試みを実現するために必要なことを考えてみてください。
- ・学生中心とした教育を進めるための「新たな授業スタイルのあり方」の提案になります。従来とは異なる環境において、本学の授業（実習）に適した、新たな授業スタイルの展開を提案してください。

### 参考資料

本学の基本方針  
[http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/basic\\_policy.html](http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/basic_policy.html)  
教育理念・目的・目標・行動指針※便覧  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/rinen.html>  
大学の三方針(ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー)※便覧  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/policy.html>  
シラバス(冊子あり/学部別)  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus.html>  
学生便覧(冊子あり)  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/index.html>  
北海道医療大学学則※便覧  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/gakusoku.html>  
学校法人東日本学園 中期計画  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/keikaku.html>  
本学の取り組み  
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/torikumi.html>



2020年度 全学FD研修 <テーマ編>

# ワークショップの進め方 ブレイクアウトルームの説明

2021年3月15日(月曜日) Zoom研修会

主催：全学FD委員会

担当：山田律子(看護福祉学部・FD委員)

## ワークショップの流れ

- 13:15-13:20 ワークショップの開催にあたって (和田副学長)
- 13:20-13:30 導入講義と作業課題 (今井委員)
- 13:30-13:40 ワークショップの進め方とブレイクアウトルームの説明 (山田)
- 13:40-13:55 **ブレイクアウトルーム入室**  
\*アイスブレイキングと自己紹介  
\*役割分担(リーダー・記録・発表)
- 13:55-15:45 **ワークショップ**(各グループ 110分)
- 15:45-15:55 休憩
- 15:55-16:35 **発表・質疑応答**(各グループ 10分×4G)
- 15:35-15:45 PC必携と今後のPC活用法等 (和田副学長)
- 15:45-15:50 全学FD委員長挨拶(総括)
- 16:50-16:55 アンケート(Google Form)記入・閉会

## ワークショップの進め方

**質問です。**

ワークショップは初めて?

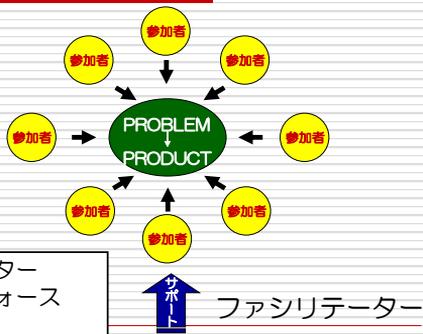


## ワークショップとは?



- ・ 多人数を対象として、**参加者1人1人の参画意識を高める**ために、**小グループ**に分かれて**討論と作業**を行い、**結論**を出していく方式をいう。
- ・ **一定の時間内**にある**成果(プロダクト)**を生み出すという手段をとる。

## ワークショップとは?



## ワークショップの流れ

1. **プレナリーセッション**  
全体：導入講義・作業課題
2. **スモールグループディスカッション** (110分)  
グループ別：課題について討論・プロダクト作成
3. **プレゼンテーション** (1グループの持ち時間10分)  
グループ別：発表・質疑応答

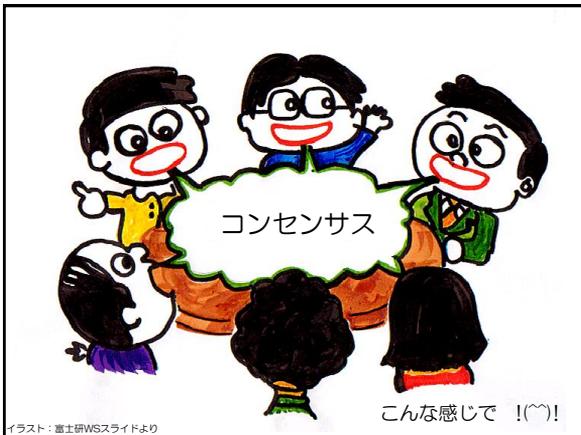
## ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が Resource Person(主役)
3. 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
4. どんな質問・意見でも無意味ではない  
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった正解はない
6. 先生はいない
7. 時間を守る



イラスト：富士研WSスライドより

これは歓迎しません... (+o+)



## スモールグループディスカッション

1. 参加者の自己紹介(1分程)  
(アイスブレイク：氏名・所属・私のいち押し、「実は私〇〇です」、Good & New[24時間以内にあった「良かったこと Good”や”新しい発見New”]など)
2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)
3. グループ名の決定
4. グループ討論・発表内容の確認



## 役割

- **司会**・・・ [ ]
  - グループ討論時の司会進行を行う。
- **書記・PC入力**・・・ [ ]
  - グループ討論時、Zoomで画面共有しながら書記(PC入力)を行う(プロダクト作成)
  - 作成したプロダクトはU S Bに保存する。
- **発表者**・・・ [ ]
  - 全体発表時にグループプロダクトをZoomで画面共有して、発表を行う。
- **タスクフォース (TF)**
  - グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
  - グループ討論のタイムキーパーも行う。



## Zoomのブレイクアウトルームとは



ワークショップ  
プロダクト・感想

グループ1)

## コロナ禍における 学生実習（学内の実習） について

グループ名：学生実習をみんなで考えようグループ

司会 中山先生

サブリーダー 秋元先生

発表 中村先生

記録 河村

T F 長谷川先生、吉田先生

## コロナ禍での実習の工夫①

- ・ ZOOMの動画機能を用いて模擬セッションを録画しながら振り返りを行った
- ・ 学生のモチベーションを保つことが課題  
(患者さんと関わることができない、緊張感を保ちながらの実習が難しい、実技ができなかった)
- ・ 臨地実習に近いものにするように、情報の提供の仕方を小出しにしたり、実際の病院の患者さんに協力を頂いた動画を用いた
- ・ 臨地実習の成果を学内でどれくらい担保できるのか、実習時間の制約を受けた、内容が薄く、理解度が物足りないものになってしまった
- ・ すべてのプログラムを終えることができた
- ・ 学内実習については講義を前半につめて、後半は1日中実習にした
- ・ 講義室を2つに分けて、オンラインでつないだ。グループ実習では、距離を取ることが難しかった。次年度は換気に注意して対面で実施したい
- ・ なるべく感染リスクが少なくなるような工夫を行った(なるべく個人やオンデマンドでできることを見つながら実施した。後半は、実習室に入る人数制限を行い、入らない学生には課題を与えて実施した。)コミュニケーション能力を磨くことは難しかった。
- ・ 後期はABグループに分けて交互に登校させ、半分の数で実習を行った。実習のグループは、2人1組のグループでマスクをしてなるべくしゃべらないように実習した。オンデマンドのグループは以前から作成していた動画教材や試験教材をGoogleFormを使った。今までと同じようにできた。今後も実習はグループ分けをして行いたい。

## コロナ禍での実習の工夫②

- ・ リハでは身体接触を伴う実習が多いため、ルール(マスクやフェイスシールド、衣服の管理など)を作って、広い部屋に学生に入るようにするなどの工夫を行ったが、もう少しコストを上げていきたい
- ・ 看護はフェイスシールドが使い辛く、ゴーグルに切り替えて実施した
- ・ 薬学部と歯学部は1年生の時に自然科学実験の授業を受けているとゴーグルを買っている
- ・ 学部によって身体接触のレベルが異なる
- ・ 衛生士専門学校も、ゴーグルは1年生の時に買っている、グループワークの時にはフェイスシールドを用いた
- ・ 今年の対策でクラスターが起きていないため次年度も同レベルの対応で良いのではないかと考えた(過剰な感染防御だと続かない)
- ・ どこまで感染対策をすればいいのかのコンセンサスが大学で得られていないため、難しい
- ・ 心理では子ども対応の場合には身体接触が多く、換気とフェイスシールド、マスク、アクリル板などを用いて実施していた。

## 今後の感染対策について

- ・ これまでの対応でクラスターも発生していないので、過剰に予防しすぎることなく現状維持の対応をしていく
- ・ どこまで感染対策をすればいいのかの大学内でコンセンサスが得られるとよい(対人密着のレベルに応じた対策のガイドラインなど)

## 今後あったらよいもの

- ・ 臨地実習で得られる経験に近づけるために...  
→VR等で衛生士の目線、ドクターの目線などが体験できると臨場感が増すのではないかと考えた
- 学生一人に一体リアルな人体模型があると良い
- 地域の高齢者クラブなどとオンラインでつながり、コミュニケーションの仕方について学ぶ機会を作りたい
- 患者さんとのコミュニケーションが問題となるため、AI患者さんがいると良い(コロナ後でも自宅学習ができる)

## コロナ禍での産物を今後も活用する

- ・ 今回コロナ対策のために作った教材を実習前教育として活用していけるのではないかと、学内で補完できるものと臨地でなければならないものの棲み分けが行えるようになり、臨床推論については学内でも補完できる部分がある
- ・ 実習のFBなどに用いられる
- ・ 講義映像などを国家試験前の復習としても活用できる
- ・ ZOOMで用いた講義映像のアーカイヴなどがすぐに作成されて復習に使えるとよい
- ・ 以前からWEBベースのe learningシステムを用いたり動画コンテンツをYouTubeで見られるようにしており、今後も活用していきたい

## 【グループ 1:感想】

ワークショップテーマ:「ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方」

グループ名:学生実習をみんなで考えようグループ

司会 薬学部 中山 章

サブリーダー 秋元 奈美

発表 中村 宅雄

記録 河村 麻果

メンバー 長谷川 純子, 吉田 繁

～コロナ禍における学生実習(学内の実習)について～

これまで、いろいろなWSに参加してきましたが、今回の様なオンライン形式のWSへの参加は初めてでした。司会をさせて頂きましたが、思ったよりはスムーズに討議ができたと思います。ただ対面と異なり、オンラインではオンラインなりの工夫が必要かと思いました。司会として気づいた事ですが、普通、対面ならWS参加者は机を囲んで座っており、ファシリテーターは、一歩引いたところにいると思うのですが、zoomのギャラリービューでは、ルームに入っている全員が同じように見えるので、誰が参加者で、誰がファシリテーターなのか、慣れるまで見分けるのが大変でした。今後、zoomで、SGDを行う場合は、名前のところを、名前プラス役割とかに変更すると、よりスムーズに討議に入っていけるかと思いました。討議に関しては、コロナ禍での実習について、各学部で、いろいろな工夫がなされており、情報共有を行えたことが有意義でした。今後、よりよい実習の構築に繋げて行ければと思います。

(薬学部 中山 章)

グループ2)

テーマ：対面授業実施時のオンデマンドの活用について

進行役：百々（心）・大山（歯衛）・濱田（看）

参加者：司会・新岡（薬）、越野（歯）、記録・橋本（リ）、発表・飯泉（リ）

名前：チーム・オンデマンド

### 1) オンデマンドの定義

「オンデマンド」から受ける印象は教員間で異なる。

・授業あるいは実技、臨床所見などを記録した動画と、それに付随する教材動画をアップロードして視聴させることがオンデマンド講義ではなく、オンデマンド教材の活用という視点での議論をした。

利点：いつでも・どこでも・なんどでも！視聴可能な講義資料および教材。

なんどでも→自習学習（アクティブラーニング）へ活かす

プレ学習・ポスト学習への活用

理解力に差がある学生が多い科目では、ポスト学習の教材としてよい

弱点：双方向性の難しさ

自律的な学習習慣をどのように形成するか。

→ 対面授業で仕掛ける。フィードバックする。提出期限などを自己管理する力をつける。

### 2) オンデマンドの実践例

#### ・越野先生の例

動画をアップロードして、学生が視聴するように指示、その後でレポートの提出を1つの流れとする。ただ、学生の中には動画を視聴していたが、レポートを提出しない人がいて、困った経験がある。

#### ・飯泉先生の例（反転授業）

学生は授業内容（1テーマ：10分ほど、4つほど）を視聴した後に、講義時間には学生が提出した内容をZoomで供覧して、よい点や改善点を指摘して思考する内容を行った。動画の内容はいつでも視聴可能にしてあった。学生自身が提出した内容に対する教員からの指摘によって、学生の動機づけが上がった。学生の理解度に合わせて、講義時間が短縮あるいは延長といった調節ができた。観察はオンデマンド動画の利用がよかったが、触診は教えることが難しかった。

#### ・歯科衛生士学校の例

「歯石を取る」を15コマで行っている演習の様子を動画にして、視聴できるようにしている。手技はテストで習得するまで、何度も繰り返して行う。動画の作成にかなりの労力を要する。到達点をきちんと示して、それに向かって動画を視聴して、手技を身につける。学生自身が、どこが悪いのかを聞いてくるので、そのときにフィードバックをする。場合によっては、教員が手技を見せる。

### 3) いま考えられる活用

#### ・講義前の活用

旧年度に録画をした講義をアップロードして利用する（講義前の自習教材）。

症例の所見をじっくり見ることができる。

演習・実習の様子を動画で提示して、観察記録（レポート）を提出させる。

→学生の進捗状況や能力に応じて、レポートを作成することができる。

#### ・講義後の活用

講義内容をその日のうちにアップして、復習ができるようにする。

講義の動画を試験前に公開する案はよいだろう。

動きがあった方が伝えやすい内容は Youtube を利用して理解を深める。

#### 4) 動画を作るときのポイント

復習用の授業動画と、オンデマンド用に未知の内容では異なるだろう。オンデマンド教材に対する学生のアクティブラーニングの時間を考慮する（学生によって結構時間が必要かも？）。多様な学生に合わせてられるように余裕を持たせた配分を学科内で相談するほうがよいだろう。ある科目だけで大量に作ると、他の科目にまで手が回らなくなる。

## 【グループ 2: 感想】

ワークショップテーマ:「対面授業実施時のオンデマンドの活用について」

グループ名: チーム オンデマンド

構成員: 新岡丈治(薬学部)、橋本竜作(リハビリテーション科学部)、飯泉智子(リハビリテーション科学部)、越野 寿(歯学部)

グループワークにおいては、新岡先生が司会、橋本先生が記録、飯泉先生が発表の役割分担で、非常に活発なディスカッションが行われました。まず、オンデマンドの言葉の定義について議論を行い、「授業あるいは実技、臨床所見などを記録した動画と、それに付随する教材」との共通認識を持ちました。ディスカッションではすべての先生方の経験をベースにしたオンデマンド教材の活用方法について検討を行い、その汎用性を高めるために、利点欠点についての検討を行いました。特に重要なオンデマンド教材の利点として、「いつでも・どこでも・なんどでも！視聴可能な講義資料および教材」であることが挙げられました。また、基礎系教員が2名、臨床系教員が2名の構成だったため、それぞれの学習体系の違いを共有しながら幅広いディスカッションができたと思っております。

ディスカッションする内容が、当初から起承転結を意識した形になっており、橋本先生のディスカッション記録が、そのまま発表用原稿、プロダクトになるものでした。

素晴らしいメンバーに恵まれた有意義なワークショップだったと思います。

(歯学部 越野 寿)

グループ3)

# ワークショップ報告

## グループ名：EXERCISE

リハビリテーション科学部 桜庭 聡 (司会) 山田 桃子 (発表)  
心理科学部 西郷 達雄  
看護福祉学部 松本 望 高木 由希 (記録)

## 1. 今年度の取り組みについて

- ・授業中、終了時に小テストを使って理解度を確認する方法が多かった
- 良かった点：リアルタイムでその結果を把握し、数値化して記録に残せる。  
補足説明もできる。(Google form使用) フィードバックが可能であり、結果を学生と共有しやすい。
- 小テストを成績評価に用いたが、難易度を高めに設定して資料など調べる時間が不足するような工夫をしたり、タイムリミットを設けた。
- 満足度についても回答を得た。今後も使用していけるのではないかと。

## 1. 今年度の取り組みについて

- ・授業終了後に時間を設けて小テストを行った。(頻度は毎回)
- 回線接続の問題で、回答時間を長めに設けたが、そうすると学生同士で回答を共有していると思われる結果となった。そのため、考えなどを述べる問題を繰り返して、授業を聞いた上で回答できているかを測るような工夫をした。(記述回答など)
- ・試みが難しかったことは、リアルタイムにリアクションを得る(手を挙げる)と在宅参加の学生の回線が重くなってしまい、十分に活用できなかった印象である。半分～7割程度が理解ができたリアクションが得られると、参考になる。
- ・チャットを活用していたが、書き込む学生と書き込まない学生に分かれるので、リアクションボタンの方が参加しやすいと思った。
- ・出席状況が怪しい学生も散見したため、チャットでのリアクションを得るようにしたが、把握する教員の負担が大きかった。最終的にリアクションペーパーで把握した。必ずしもカメラをオンにして参加するというのを求めるのも難しかった。

## 1. 今年度の取り組みについて

- ・成績と関係ないクイズなどを取り入れ、参加しやすい工夫をした。文章を打たせるのではなく簡単に入力できる数字が多かった。
- ・学生の授業アンケートを毎回設けて、学生の理解度に対する主観的捉えを把握した。自己学習も含め授業の理解をしていくことが大切という意識付けを行った。学生にとっては、対面の時よりも質問しやすくなったような距離感の近さを感じた。
- ・授業内容を今後どう活かせるかという問いかけを行い、ただ授業を理解するだけでなく、知識を応用できるような意図的な働きかけをした。
- ・学習支援ツールの掲示板を活用して、オンライン上でフィードバックを行うように工夫した。学生同士のやりとりの派生も期待され、効果的な方法と考えられた。授業の感想や気になったことを書き込んだ学生のコメントを全員がみることが出来るのもよかった。
- ・対面の時には出来ていた学生同士の情報交換等は、オンラインでは難しかった印象である。

## 2. 次年度以降の新たな可能性、試みについて

### 使用可能な媒体について

- ・ Google form、classroom、Manaba、Zoom

### 方法

- ・ 小テスト
- ・ チャット、リアクション
- ・ アンケート、掲示板等

## ①小テストの運用方法について

### 小テストを用いる目的による(理解度の確認、参加状況の確認)

- ・ タイミング：授業中、授業終了時
- ・ 小テストの結果の活用：教員の把握、学生との共有
- ・ 小人数の授業であれば、テストの結果に応じて学生同士のディスカッション(ブレイクアウトルームを使って)をしてもらうことができないか(マンパワが必要)

### ①小テストの運用方法について

#### 小テストの難易度、所要時間、内容について

- ・資料などを確認しながら解答する、あるいは短時間で解答する。
- ・単純に知識を問うだけではなく、学生個人の考えを問う。
- ・学生の学習状況、準備状況によって、解答しやすさが変わる。
- ・テスト結果のフィードバックを行う時間を確保する、あるいは、解答結果の通知の設定などを行う。

### ②Zoomのチャットやリアクションを用いた理解度のチェック

- ・授業回における、理解度の確認として用いる場合、7～8割の学生の理解が得られたという反応を指標（この指標が妥当かどうか）とする。
- ・タイムリーに学生の理解度を把握して、その場の授業に活かす。
- ・学生の取り組み状況を把握する上で、必ずしもカメラをオンにしているわけではないため、チャットへの書き込みを活用していく。
- ・チャットによるやり取りの匿名性を保証して、コミュニケーションを促す。
- ・チャットやリアクションでは、知識の獲得や本質的な理解を推し量るのは難しいという限界もある。

### ③アンケートや掲示板の使い方

#### アンケート

- ・選択式だけでなく、記述式の項目を設ける
- ・理解度について端的に解答を得て（10段階、VAS、パーセント等）、何故その理解度かの理由（何を分かっている、何がわからないのかを明確にする）を学生に内省してもらう
- ・感想など書き込んだ学生には、何らかの形でフィードバックを試みる

#### 掲示板・ストリーム機能

- ・授業内容にもよるが、学生同士の意見共有により学びを深める
- ・スレッドを立てるのは学生でも教員でも良く、その内容について全員参加を促す（管理者的存在は必要である）
- ・学生同士のやりとりで解決するのではなく、そこに教員が参加していくことで理解度を測る
- ・疑問点や質問などを学生同士で共有するメリットを学生にも意識してもらう

### 【グループ 3: 感想】

ワークショップテーマ: オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について

チーム名: EXERCISE

リハビリテーション科学部 桜庭(司会) 山田先生

心理科学部 西郷先生

看護福祉学部 高木先生 松本先生

今回、私達のグループでは「オンライン授業における学生の理解度のチェック方法」について意見交換をする機会を頂きました。オンライン講義という一昨年までは馴染みの無かった講義形式で取り組む中で、各先生が工夫された点が多く挙げられ、来年度の講義展開のヒントが多く得られた有意義な時間を過ごすことが出来ました。その中で、学生の理解度という表面化しにくいものを見えるようにするために、難易度や内容を吟味した上で小テストなどを行うこともさることながら、zoom の機能であるリアクションやチャット機能、Google Form によるアンケート、さらには LMS の掲示板機能など、様々な媒体を用いて学生が発信する機会を提供し、なおかつそれらに対しフィードバックを行う教員の姿勢も大切なのだということを改めて認識することができました。

普段から行っているオンラインの講義では、「どのようにして『発信』するか？」に重きを置きがちですが、学生が発信したものに丁寧に応えていく姿勢も、学生の理解度を推し量るには大事なものであることを思い出させてくれる良い機会となりました。

(リハビリテーション科学部 桜庭 聡)

グループ4)

2020年度全学FD研修（テーマ編）  
学生を中心とした教育を進めるために  
ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について

#### 4) PC必携時のICTの活用について

## ICTをアイシテル

2021年3月15日

門 貴司 (歯学部)  
内ヶ島伸也 (看護福祉学部看護学科)  
池森 康裕 (看護福祉学部臨床福祉学科)  
近藤 啓 (医療技術学部)

### 講義への活用

#### 教科書・配付資料についての考え方

- 教科書をデジタルにできれば、学生にとって便利
- 配付資料もデジタル配信の流れになると思うが、懸念もある  
    メリット：経費削減、感染リスクの回避  
    懸念：授業資料を実習先へ持参しにくい、著作権や個人情報の問題  
    実践例：ARを使って動画を視聴してからのグループワーク



#### PC必携だからこそできる授業方法の検討

- フォームを使うと学生は意見を出しやすい→意見をまとめてその場で提示できる
- ネットワーク環境があれば、データを検索・加工する授業ができる
- 遠隔を活かして、他大学の学生とつながることも可能かもしれない
- スライドがしっかり見えるので、対面でも有効



### 実習・演習への活用

#### これまでに実施してきたこと

- 記録やレポートの作成、提出で活用してきた。
- 実習中の体調確認にも使用した。
- 動画教材を作成し、学生が視聴する演習・実習は、何度も見れて効果的だった。  
→何度も見れることで、逆に集中力が低下しないかの心配もあった  
→視聴履歴を残し、確認テスト等があると、学生の意欲に働きかけられるかも  
何度も繰り返し見れるという学習環境を整えることが大事

#### これからの可能性

- バーチャルシステムを活用することで、病理学習や顕微鏡像の
- 学習を効果的に実施できる可能性
- 自分の実践を動画に収めて自己の振り返りに活用する
- ARやVRの活用
- オンラインは臨床の人たちも参加しやすい



### 学生生活支援への活用

- 登校できなかったときに新入生にオンラインで面談をした。顔を見ながら相談にのれたため、今後うまく活用すると良い。
- 就職活動の支援をオンラインや動画を活用してできるかもしれない。

### 今後の可能性

- レポートなどがデジタルデータになることで、ビッグデータとしてこれをAI技術を使った解析が可能になるか  
    • 低学年時の提出物が高学年になった段階での状態を予測することができるかも  
    • AIの活用は、学生が自分のレポートをチェックすることもできるといいかも  
    • チャレンジタッチのように、間違えたと似たような問題が自動でフィードバックされるなど
- eラーニングを国家試験の過去問の回答状況が教員が見える

Message : 学生の意欲向上につながるようにPCを使うことを大切に！

#### 【グループ4:感想】

ワークショップテーマ:PC 必携時の ICT の活用について

グループ名:ICT をアイシテル

歯学部 門 貴司

看護福祉学部 内ヶ島 伸也、池森 康裕

医療技術学部 近藤 啓

我々のグループは、「PC 必携にするからこそできること」という事で、「講義」「実習・演習」「学生生活支援」「今後の可能性」について議論した。グループ内ではさらに、4/1 から入ってくる新入生に対して、すぐにできる短期間で実現可能なことと、長期間かけて活用できることに分けて議論した。短時間で1回きりの議論では難しいところはあったが、PC 必携時の ICT の活用に関してのキーワードとなる部分や問題点は提示できたと思われる。

また議論を通して、全体 FD での短時間のプレゼンテーションでは見えなかった、他学部での ICT の活用法をお互いに知ることができ、今後の各学部での ICT の活用に生かせると思われる。

Zoom でのワークショップは、お互いに発言するタイミングに少々苦勞する部分はあったが、非常に活発な意見を交わすことができた。FD 委員の皆様、このような状況での FDWS の開催にはご苦勞されたかと思いますが、大変お疲れ様でした。

(歯学部 門 貴司)

# F D 委員感想

今回の全学 FD 研修では、「学生を中心とした教育を進めるために：ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について」というテーマでワークショップが行われた。4 グループに分かれて熱心な討論と作業が行われた。筆者がファシリテーターとして参加した A グループでは、「コロナ禍における学生実習(学内の実習)について」というサブテーマで熱心な討論が行われた。各学部の取り組みとして、動画を使用したオンデマンド形式の実習、グーグルフォームを利用したレポートの提出、web 上でのシミュレーターの使用など、IT を利用した実習方法が紹介された。しかし、看護やリハビリテーションの分野では、実際に人体に接触しなければ行えない実習もあり、マスク、ゴーグル、手袋を着用して実習を行った例も紹介された。これらの例から、

- (1) IT を利用した実習には積極的な教育効果があり、今後、コロナ禍が収束した後でも継続して行う利点があるのではないか。
- (2) 人体に接触する実習でも、適切な予防手段をとっていればコロナの感染を引き起こすことはないの、今後、コロナ禍が収束しない場合でも、適切な予防指針を確立した上で実習を継続するべきではないか。

という結論に至った。

私見であるが、インフルエンザと同様に、新型コロナに対するワクチン、治療薬、対処方法が確立するまでは 5~10 年を要すると思われるので、それに従って、今回のテーマでの FD 研修会も継続的に行っていくべきではないかと感じた。

(薬学部 泉 剛)

C グループ「オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について」の FT として参加した。看護・リハ・心理の3学部から若い先生5名によるグループ討議であった。終始活発な意見が交わされ、正直に言うと FT としての役目はなく、ただ彼らの議論を興味深く見守るという状況であった。私は薬学部で 160 名の授業を担当しているため、学生の理解度を毎回チェックするのは無理と半ば諦めていたが、他学部の若い先生方の意見には全く驚かされた。オンラインであるからこそ、Google Form を用いた授業中後の小テスト・授業後アンケート、他に Classroom、Manaba、LINE 掲示板を用いたチェック方法など様々な意見が湯水のように出された。

また、これらには先生方独自の工夫がなされ、学生の理解度確認については常日頃から感度を高めている努力が垣間見られた。私的には、入室して何をしているか分からない学生や情報交換できない孤立した学生などの対策をもう少し議論して欲しかったが、概ねオンライン授業を前向きに捉えた良い議論であったと思う。

(薬学部 小島 弘幸)

今回は全教員が共通して様々な悩みを抱えている「コロナ禍における学生教育」であったため、午前中の全学 FD 研修への参加者もいつもよりも多い印象を受けた。また、午後のグループワーク後のグループ発表も全教員に向けて公開したことはとてもよい試みであると感じた。

午後のグループワークでは、「Cグループ:オンライン授業における学生の理解度のチェック方法について」の討議にファシリテーターとして参加したが、参加者がいずれも FD ワークショップをこれまでに経験したことがある教員ばかりで、時間内にかなり具体的なプロダクトを作成することができた。

一方で、メンバーの所属学部 zu 若干の偏りが認められ、教員数の多い薬学部・歯学部の教員が1名も入っていないのは残念なことだと思った。全学 FD 研修のオンライン開催は、今回が2回目だったと記憶しているが、オンライン開催ならではの利点が強くと印象に残った。

(歯学部 會田 英紀)

今回の研修では、看護学科の実習が新型コロナ禍においてどれほど難儀なことであったか知る機会を得ました。人に触れる機会を奪われた中で、いかにして看護の実践力が身につく経験を学生さんに積ませるか、関係された教員の苦勞と工夫をうかがい知ることができました。

そのような状況にあっても、進級・卒業させることができたのはひとえに教員の看護教育に対する情熱の賜物と感服させられました。学生は、通常通りの実習を経験できなかった悔しさ・虚しさを感じているかもしれませんが、自分たちの実習のために教員が日夜駆けずり回ってくれたことをきくと感じ取っているのではないのでしょうか。

新型コロナ禍での実習では、学生さんは患者さんとふれあう機会は激減しましたが、教員との心のふれあいは深まったのでなからうかなど、看護学科の先生のお話を聞きながら思いを巡らせていました。この1年看護学科の先生、とりわけ実習担当の先生方がご苦勞されてきたことは、コロナ禍が過ぎ去っても役立つであろうし、またいつか新興感染症が襲って来た時には大いに活用されることと思います。

(看護福祉学部 濱田 淳一)

3/15 行われた全学 FD 研修会に FD 委員として参加しました。コロナの影響でオンライン授業の実施になり、試行錯誤した1年間でしたが、今回の研修では各学部のオンライン授業の実態が明らかになり、それぞれの工夫が伺われてとても参考になりました。特にワークショップでの議論は、まだ収束の兆しが見えない今後のオンライン授業での対応を考えると、参考になる発見がいろいろとありました。Zoom での研修会でしたが、ブレイクアウトルームを使うとグループワークがきちんとできることも改めて認識できたので、今後の対応に活かせるノウハウを感じることもできた有意義な時間となりました。

(心理科学部 今井 常晶)

今年度のFD研修テーマは、「ポストコロナにおける新たな授業スタイルのあり方について」であった。午前実施された各学部における新型コロナにおける授業等の対応は、それぞれの学部で色々なご苦労、工夫がなされている現状を知ることができ、とても参考になる内容であった。ワークショップでは、4人1グループの4つの異なるグループが作成され、議論が展開された。私が参加したグループは「PC必携時のICTの活用について」だったが、今年度すでにコロナ禍において講義や学内実習でICTを活用しており、問題意識が高いテーマであったことから、全員が積極的かつ活発に議論に参加していた。各メンバーから出される情報や意見はかなり具体的で面白い内容があり、メンバー内での意見交換だけではもったいない内容が数多くみられたが、まとめの中に反映させるには難しい面があった。

ICTをどう活用できるかのまとめだけでなく、議論の中に出てきた面白い具体的企画・事例について取り上げ、大学に提案するという試みも加えたらさらに面白みが出たように感じた。

(リハビリテーション科学部 山口 明彦)

今回のテーマ編は、武漢ウイルス蔓延の影響で全国的に広がったオンライン教育に関するものであった。どの学部からの報告を聴いても、初めての経験で非常に熟慮を要したのが感じ取られた。

しかしながら、本題を外れるものの小生にとって一番印象的な話題は大村先生の『<本学の感染対策～2020年度の新型コロナウイルス感染症に関する対応結果のまとめ～>』であった。要するに、学生を武漢ウイルスから守るために大学が何をすべきか、ということである。ポイントはラジオアイソトープの取り扱いと全く同じである。(1)遮蔽(2)暴露時間の短縮(3)距離の3つである。これさえ頭に入れておけば、感染から身を守ることができる。通勤時や大学で学生を観察していると(1)顎マスク(2)長々と友人とチャット(3)非常に近い距離でのチャット 等が目につく。まずは、これらのことを啓蒙して学生を守る必要があるように感じた。

春から秋にかけて、朝一番で通勤した際にいつも廊下の窓を開け回していたが、雪が降り始めたのでやめてしまった。連続的に廊下で近距離で大声で馬鹿話をしている学生達を見るたびに恐ろしくなる。

漸く最近暖かくなってきた。また早朝の窓開け係りの復活だ。

(医療技術学部 藏満 保宏)

#### 内容について

- ・現時点で必要な内容が検討されて良かったと思います。

#### 運営について

- ・事務局を含めて非常に高圧的で相手の存在を認めない扱いを受けたことは非常に残念でした。
- ・質問に対する回答ではなく、論点をずらした回答が行われたこと、事務局の都合の悪い情報開示は拒んだことなど、残念でした。

・電話連絡を試みましたが叶わず、メールでのやり取りから以上の判断を行わざるを得なかった点も残念でした。

(医療技術学部 坊垣 暁之)

今年度の全学FD研修(テーマ編)は Covit-19 の影響で 8 月から 3 月へ日程が変更され、オンライン形式で実施されました。FD 委員として参加いたしましたが、8 月に実施された基本編のベースがあったこともあり、受講者への促しはスムーズだったように感じました。

そのような中、私は事例報告をする機会をいただいたのですが、通信が途切れ、少し遅れて開始するというハプニングに見舞われました。急遽、本校の受講者である教員の PC から報告することになりました。時間が押している中、大変申し訳ないと思う気持ちとともに、オンラインにありがたい「あるあるハプニング」はつきものだと実感しました。

研修内容については多くの学びがあり、なかでも各学部の事例報告が個人的に参考になりました。今回のFD研修会は「教授法の開発改善を行うとともに教育力を高める」という趣旨のもと開催されましたが、各学部の報告はそれぞれの特色やアイデアに溢れ、新しい方法を発見することができました。「教授法の開発改善」として今後に活かしていきたいと思います。

まだまだ、コロナ禍という状況を抜け出せませんが、今後の授業の在り方に繋がる実りある研修であったと思います。

(歯科衛生士専門学校 大山 静江)

# 総合評価

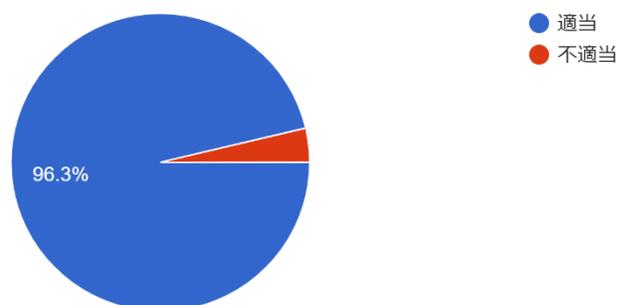
## 参加者アンケート集計結果

\*参加者：名      ・回答者：54名      ・回収率：%

### FD研修の日程について

Q1. 今回のFD研修の日程は適切でしたか

適切	不適切
52	2



Q1. で不適切を選択した方へ

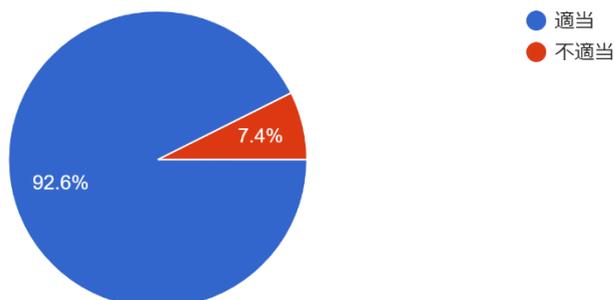
Q1-2. 不適切とご回答の場合はその理由やご意見をお願いします

- ・今回は忙しい時期でした。
- ・もう少し早めにスケジュールを連絡していただけると嬉しいです。

### FD研修の時間配分について

Q2. 時間配分は適切だと感じましたか

適切	不適切
48	4



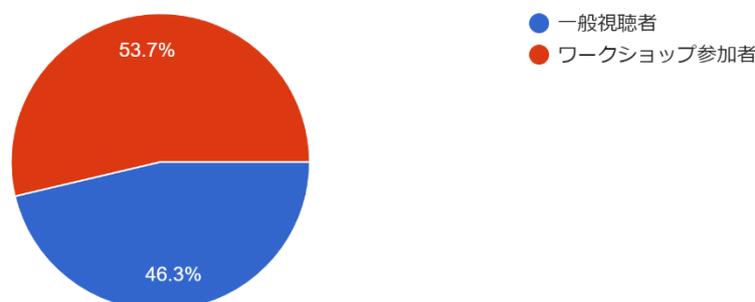
## Q 2. で不適當を選択した方へ

### Q 2-2. 不適當とご回答の場合はその理由やご意見をお願いします

- ・ 2日に分けて頂いたほうが良い
- ・ 休みが無かった。長すぎた。
- ・ 2/3程度の時間で良いと思います。
- ・ 休憩時間が十分とれる時間配分が良かった。

## アンケート回答者の参加区分について

一般視聴者	ワークショップ参加者
25	29



## ワークショップについて ※ワークショップ参加者のみの回答

### Q 3. ワークショップについてのご意見、ご感想をお願いします

- ・ 年度末のため、時間がもう少し短いと助かります。
- ・ グループの所属学部にし少し偏りがありました。
- ・ 意見交換ができてよかったです。
- ・ 良かった。
- ・ 非常に活発な意見のやり取りでした。
- ・ 今後ともいろいろな状況に遭遇した際にも対応できるよう今回の4つもテーマはととてもためになりました。ありがとうございました。
- ・ 他学部の先生とご一緒できて大変勉強になりましたし、面白かったです。
- ・ FD委員として参加しましたが、具体的な提案が多くあり、とても参考になりました。
- ・ 他学部の意見が利けて良かったです。
- ・ 多くの先生方が遠隔授業で悩んでいたことが分かり、それを共有できたことがよかったです。
- ・ 有意義な意見交換ができた。
- ・ 活発な議論ができましたが、より多くの学部の先生方とも議論ができればもっと良かったと思います。
- ・ 現時点で必要な内容が検討されて良かったと思います。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ テーマが4つに分かれていて良かったと思います。

- ・とてもタイムリーなテーマだったため、グループワークの議論もとても活発だった。
- ・タイムリーなテーマであり、充実した討論ができました。
- ・学部の垣根を外して、活発な意見交換がされたと思います。他学部の取り組みを理解できる良い機会でした。
- ・来年度からのオンラインの講義展開に役立つ情報も共有でき、とても有意義な時間でした。
- ・各学部の状況やノウハウが共有出来て大変良かったです。
- ・各学部の様々な取り組みが理解でき、次年度に繋がるような話し合いができたと思います。
- ・他学科の先生方のお話を聞いて参考になる点がありました。
- ・現在、重要視されるテーマが適切に選択されていて勉強になった。
- ・実りのある内容だった。色々な学部の取り組みを聞いたことがよかった。
- ・週末返上で直前まで準備にあたっていただいた荒川委員長、日下課長には、誠にありがとうございました。ワークショップはとても有意義な意見交換、交流ができ、また各グループの発表も、今後活かせる内容も多く、大変勉強になりました。FD委員の皆様、ご参加いただいた教員の皆様にも、心から感謝申し上げます。貴重なお時間をありがとうございました。
- ・グループでは、テーマに関係するご経験をお持ちの先生方の細部にわたる工夫や実施上の様々なご経験をうかがえたのが、とても貴重でした。全体としても、大変有意義な議論ができたとおもいます。
- ・他の学部の取り組みを知る良い機会となった。ただ、学部によって実習の際の感染リスクには違いがあり、同じ視点で話合うことが難しい部分もあった。しかし、コロナによる産物を感じている教員が多いことも理解でき、今後活かしていきたいと考えた。

## FD研修全般について

### Q4. ワークショップについてのご意見、ご感想をお願いします

- ・基本的な枠組みはよかったのですが、内部の事前確認が少し甘かったかなと感じました。
- ・オンラインで視聴しやすかった。
- ・良かった点：他学部の遠隔授業の実践例を知ることが出来た点。  
悪かった点：事前に学部内での状況を正確には把握していないように思います。
- ・遠隔授業のさまざまな具体的実践について知ることができたが、結局、どういう取り組みがよいのか悪いのかは分からない。
- ・事務局を含めて非常に高圧的で相手の存在を認めない扱いを受けたことは非常に残念でした。
- ・良かった点は活発な議論になった点、悪かった点は特にありません。
- ・今年度の新型コロナ禍の授業対応事例を振り返り、全学での情報共有および協働することは有益であった。
- ・○タイムリーなテーマ ×時間が長い
- ・オンラインで参加が可能な点が良かったです。
- ・班編制に所属学部の偏りが若干あった。
- ・学部を横断する形で討論ができました。
- ・他の学部の取り組みなどを知ることができた点は非常に興味深かったです。内容が盛りだくさんで休憩時間がほとんどなかったので、ずっと画面を見ているのが大変でした。
- ・良かった点：時節に合致したテーマだったと思います。また、Zoomで行われたことで、GWでは議論をしながら話し合った点を共有できたことで、話し合いがスムーズに進みました。  
悪かった点：特にありません。

- ・良かった点：テーマが「このご時世」にあっていたため、互いが工夫している点のネタが多く挙げられ、共有できた。  
悪かった点：オンラインでの特徴なのかもしれませんが、議論が1対1対応になりやすく、「白熱した」議論まではいきませんでした。これは慣れなければならないことなのかもしれませんが、対面でのディスカッションとはまた異なる空気を感じました。
- ・Zoom やオンデマンドなど色々な工夫が効けて良かった。
- ・良かった：各学部の状況やノウハウが共有出来て大変良かったです。  
悪かった：発表者や司会進行等主だった人だけでもどこかに集まった方がトラブルは少なかったかなと思います。
- ・しいて言えば、ZOOMのミュートやブレイクアウトなどはもう少しスムーズにできてよかったですと思いました。（全体の内容を損なうものではありませんでした）
- ・今現在の状況に即している議題で勉強になり良かったです。
- ・良かった点；テーマ選びや感染対策 悪かった点は特になしです。
- ・情報交換ができたことはとても良いと思った。唯一悪かった点は、時間が長かった。画面から目が離せなかったので目と頭が痛くなり、学生の気持ちが分かった。
- ・各学部の取り組みを知ることができて良かった。
- ・他学部との交流はとても有意義な時間だったと思います。ややネットトラブルがあったのは残念でしたが、HNNET2になったときに改善することを祈っています。また午前の部も休憩時間があると、よかったかもしれません。
- ・社会環境、教育環境が大きく変わる中で、教員の関心が高いテーマを取り上げてくださり、ありがとうございました。午前、午後ともに大変、有意義な内容でした。新年度からの授業計画に少しでも反映させていきたいと思います。
- ・良かった点として、他の教員が昨年のコロナ禍での教育経験から、ネガティブなことだけでなくポジティブな面についても評価しており、それを今後の教育に活かしていこうと考えていることを知ることができてことであった。悪かった点は特に思いつきません。
- ・他学部間での授業形態の違いや考え方が共有でき有意義であった。
- ・質疑応答の時間を取れなかった。
- ・良かった点：発表者の方々のコロナ禍でいろいろな取り組みについて知ることができたこと。
- ・学部によって授業形態が異なる為、様々な対策について学ぶことができた。
- ・良かった点：今年度は自分たちのことで手一杯でしたが、他学部の取り組みを一堂に見ることができたのは非常に貴重でした。思っていた以上に各学部で考え、工夫している様子を知ることができました。次年度は随時情報を共有できれば、このような不自由な状況下でさらに教育の質を高められるのではないかと感じました。  
悪かった点：副学長も指摘されたように「学生を中心とした／学生のための」の部分が深められず、それぞれがやってきたことの総括という性格が強めに出ている気がします。（もっとも、今回「テーマ編」のイントロとして、各学部の取り組みはぜひ知りたかったので、これはこれでよかったと思います。）

## 今後のFD研修に向けて

### Q5. 今後のFD研修で取り上げるべきテーマなどのアイデアがあればご提案ください

- ・今の所特にありません。
- ・デジタルツールの活用。
- ・PC 必携化に適した授業方法。

- ・特に浮かびません。
- ・各学部・学科のブランディングと、少子化時代における広報戦略。
- ・休退学予防。
- ・アカハラ、セクハラ、パワハラ問題。
- ・感染レベルに応じた講義展開の在り方について。  
学部間の「学生」によるワークショップを踏まえて、本学の多職種連携に在り方について。  
議論してもらいたい。
- ・大学再編。
- ・国試対策。
- ・学生アンケートの内容（学生からの要望）からテーマをピックアップしてはどうだろうか。
- ・今回のテーマは来年度も（あるいは1年おきとか）継続して行った方が良いと思います。
- ・引き続き、学修効果が高まるようなICTの活用についての研修があれば参加したいと思います。企画、運営ありがとうございました。
- ・授業スタイルについては今回の話し合った点を踏まえて、さらに深めていきたいです。  
臨地実習の代替案として、どのようなものが教育効果を担保していけるのか、さらに深めた内容が聞きたいです。
- ・実際に講義用の動画を作るなど実践編もれば良いと思いますが、それは個々の努力ですよね。
- ・低学力者対策。
- ・ICTの活用については、今後も必須なのでさらに深めていけると良いと思います。
- ・授業と広報活動（入学者確保）の連携についても考える必要があると思います。
- ・遠隔授業に限りませんが、学習効果が上がらない学生についての取り組みがあれば、勉強したいです。
- ・今回のテーマにも関連しますが、コロナがもたらした本学への変化とそれを踏まえた今後の対応について。
- ・個人的には次年度も今回と同じような内容がいいです。とても参考になるので。
- ・なかなか臨地実習が難しい場合も今後あるかと思うので、臨床推論を学内実習の中でどのように促していくか、どのような課題が良いかなどについて多職種の視点から話し合いができる面白そうだと思います。
- ・学生の意欲を向上させる方法 環境作り。
- ・Google workspaceの具体的な利用例の紹介。
- ・学部ごとの事情もあることを理解したうえで、総合的に北医療大としての教育の方向性を全学で共有できるような内容で何かあれば。

# ア ル バ ム

# アルバム

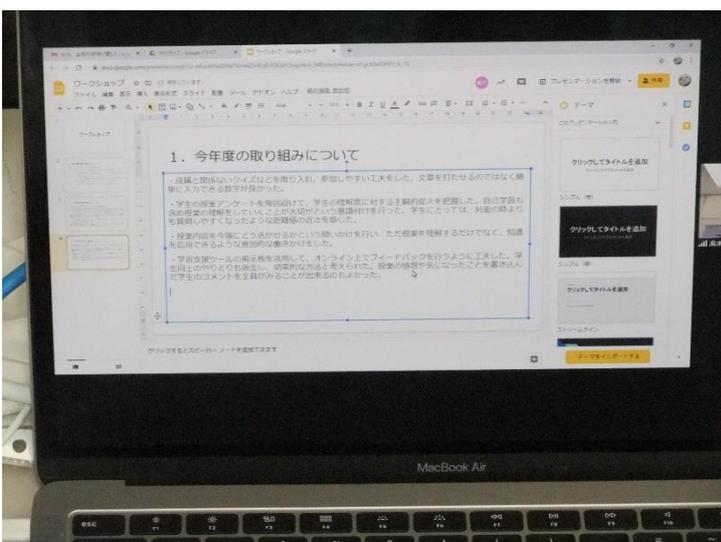
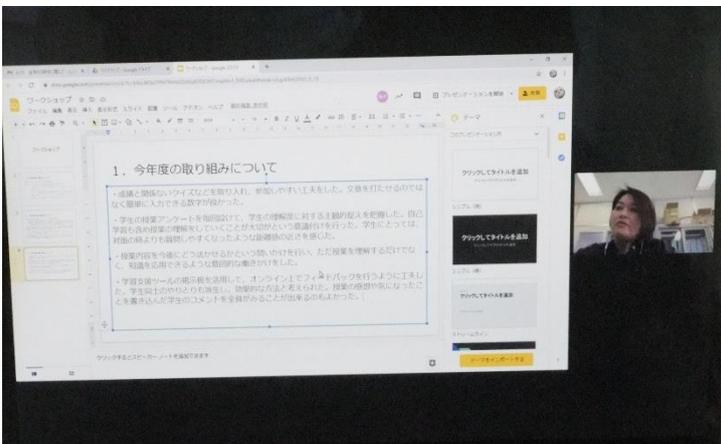
## ワークショップ

### グループ 1)



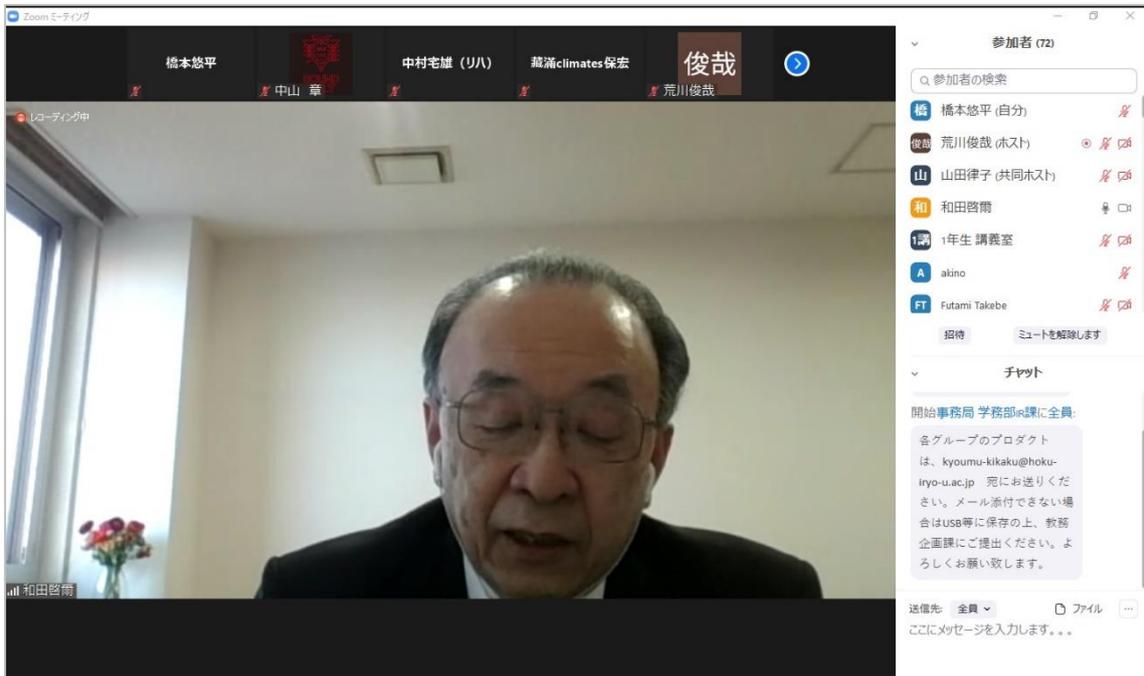


### グループ3)

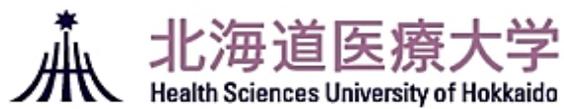


グループ 4)





和田副学長のコメント



学務部 教務企画課 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757  
TEL:0133-23-1211/FAX:0133-23-1669  
URL:<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/>